

# 如意寺所蔵の大般若経 — 平安時代後期の混合経の一例について —

問屋 真一

如意寺の大般若経について、十二世紀前半の常隆寺経・中山寺経などの混合経であると二〇〇七年に開催した展覧会で解説した。奥書による概報であったが、その後、全巻にわたる調査の機会を得た。中山寺で書写された経巻はその一部が鎌倉時代後期までに、常隆寺で書写された経巻は高男寺、萬勝寺を経て室町時代後期から末期にかけて如意寺へ移り、他の平安時代後期の経巻も交え、一具の大般若経として整備された。その際、各巻の欠失部分について補写だけでなく、他の経巻の該当部分の料紙を切り貼りする手法も取られている。

## 一、はじめに

本稿で紹介する大般若波羅蜜多経（以下、「大般若経」を用いる）が伝来する比金山如意寺（神戸市西区樫谷町谷口、旧播磨国明石郡）は、「縁起」によると、大化元年（六四五）法道仙人が樫に刻んだ地藏菩薩と毘沙門天を祀ったのが始まりで、正暦年間（九九〇〜九九五）、願西聖人が中興したと伝える市内有数の天台宗の古刹であり、鎌倉時代初期の阿弥陀堂（常行堂）をはじめ、三棟が重要文化財に指定されている。

神戸市立博物館で平成十九年（二〇〇七）に開催した展覧会<sup>(三)</sup>の解

説では、如意寺大般若経<sup>(四)</sup>について、十二世紀前半に常隆寺、中山寺などで書写された経巻を含む混合経であると奥書をもとに概略したが、詳細には言及できていない。そのため、如意寺の御住職、宇代隆信氏から特段のご配慮をいただき、全巻にわたる調査を行った。調査にあたっては、各巻がどの場所で書写され、どのように組み合わせられて現在の構成になったのか、如意寺にはどの段階で移動したのか、などの疑問について、奥書だけでなく、客観的に検討できる要素や指標の検出に努めた。料紙幅（料紙規格）の違い、その組み合わせ、書写時期などについて観察し、巻末の【表1】にまとめた。

ただし本経は保存状態が良くなく、料紙の不自然な切り貼りが少なくないため、記載の数値は暫定である。なお、書写時期や筆跡などの観察による判断はあくまでも私見である。

## 二、概要

如意寺経は六百巻がすべて揃う。江戸時代の補写経を除き、当初は卷子装であったが、江戸時代後期に如意寺がある明石郡櫛谷はせたにの村々の結縁を得て現状の折本装に修理された<sup>(四)</sup>。結縁の詳細は【修理銘】を参照されたい。料紙の裏打ちと天地を揃え、同じ規格の表紙と裏表紙を付け、木版で「大般若波羅蜜多経」と巻次を記した題箋を貼る(図1)。

十帖単位で紙製の帙で包み、その帙には木版で「大般若波羅蜜多経」と千字文の一字を印刷した題箋を貼り、五帙まとめて木箱に納める。十二合の木箱はこの改装時の製作と推定される。木箱の飾り付き落とし蓋には、帙題箋に記された千字文の五字と、木箱の通し番号を意味する十二支の文字が記される(図2)。すべて書写経で、版経は断簡を含め用いない。書写時期は、後述するように一巻のうちで異なる時期の書写が混在している場合が少なくない。最も早い書写時期を基準にすると、平安時代後期から鎌倉時代初期が五百五十四巻、そのうち明らかに平安時代後期は四百二十巻、鎌倉

時代が三巻、室町時代が六巻、江戸時代が三十七巻となる。

本文は半葉五行、一行十七字詰を基本にするが、例外も少なくない。界線は墨界だが、一巻のなかでも規格が不統一で、墨界が見られない場合もある。料紙は巻頭に近い箇所ほど水損、それによる破れ、土による汚れなどが目立ち、補写なども少なくない。注意したのは、第一紙を補写した後に再び水損した例があり、十二〜十三世紀の段階で少なくとも二度の水難に遭遇した経巻が少なくない。これが移動する要因になったとも考えられる<sup>(五)</sup>。

年号のある奥書は江戸時代を除いて二十八巻にあり、詳細は【奥書・識語等】と【奥書写真】(一部省略)を参照されたい。

## 三、料紙幅と規格

料紙の縦は江戸時代後期の改装により当初の寸法は不明である。横寸法(紙幅)はこれまでの大般若経調査の通例に倣い、第二紙を計測して調査を開始した。かつて石峯寺(神戸市北区淡河町)の大般若経を調査し、第二紙の紙幅のデータをもとに各巻を五グループに分別することで、五種類の料紙規格の使い分けと執筆僧四人の分担や進行過程について分析することが可能であった<sup>(六)</sup>。改めて考えると、石峯寺の大般若経は如法経として企画され、料紙も如法作法に従って準備され、計画的に用いられたからこそ、第二紙のみの計測

でも分析が可能であったといえる。しかし、如意寺経の場合、第二紙の紙幅はその巻を全く代表するものではないことが調査の進展とともに明らかになったため、料紙を計測し直し、紙幅の異なる料紙の使い分けと奥書の情報によって構成の分析が可能かどうか、検討することとした。

如意寺経の各料紙の横寸法は【表1】に示した。明らかに一筆の経巻でも紙幅の異なる料紙を併用する例があり、書写当初の時点で複数の規格からなる料紙が用意されていたといえる。平安時代後期から鎌倉時代初期頃の経巻のうち規格が単一なのは三百二十六巻（うち平安時代後期は二百四十九巻）あり、補写を一部含むため単一かどうか判断できないものが別に約三十二巻（同二十七巻）ある。単一の規格の巻は同時代の中で約六十%を占める。近年の大本若経の調査報告、例えば平安時代中期の慈光寺経、鎌倉時代中期の春日若宮一筆経については第二紙だけでなく、すべての紙幅が報告されている。それによると、各巻の料紙の規格が単一なのは、補写を含んで判断できないものや合巻を除外すると、およそ慈光寺経で七十五%、春日若宮経で六十五%である。慈光寺経の報告では、長短が混在して紙幅が一定しないのは、料紙の調達が一時ではなく何度かに分けて、あるいは複数の供給元だった可能性などが指摘されている。如意寺経で単一規格の割合が少し低いのは、料紙の調達や

計画的な使用がより困難であったことによると推察される。大本若経には軽く一万枚を超える料紙が必要であり、同一規格のみで調達、書写することは勿論、複数規格の料紙を計画的に調達し、併用するのは地方寺院にとって相当に困難なことであり、むしろ複数規格の料紙を一具六百巻の中で、また一巻の中でも混在して使用するのが一般的だったと考えられる。

常隆寺経と中山寺経とで料紙の使い方にどのような差が認められるのか。如意寺本では中山寺経で奥書のあるものは二例（巻第一二七、第一二八）のため、他の中山寺経を含めて検討する。中山寺経は、田岡香逸氏の調査以来、長治二年（一一〇五）九月十日の一日頓写大般若経として知られ、如意寺本の存在が明らかになるまでは、加東市の上鳴川住吉神社と馬瀬住吉神社に分蔵されているのが唯一の伝世品であった。そのうち、馬瀬経について実見する機会を得た。<sup>④</sup>【表2】は平安時代後期の中山寺経と思われる経巻のうち調査できたものの略報である。単一規格は四割程度になるが、馬瀬本の中山寺経でもサンプル数が少ない上に補写、錯簡、合巻などが確認できるため、料紙の使い方について当初の書写場所との関連性や常隆寺経と区別する特徴を見いだすことは困難である。

一方、如意寺経全体、そのうちの常隆寺経（【表1】の巻次に網掛のあるもの）、中山寺経（馬瀬本・前述の如意寺本二巻）の料紙に関

して、【表1】の平安時代後期の紙幅群①②③を料紙規格と見なし、その中間値の分布について一センチ刻みで表したものが【表3】である。なお、紙幅群の設定では各紙幅を糊代、誤差などを考慮して二センチの差の範囲で同一規格とみなしたものである。

表3 料紙規格の分布

料紙幅(cm)	如意寺 経全体	常隆 寺経	中山 寺経
	該当数		
56.5～57.4	2		
55.5～56.4	26	3	
54.5～55.4	30	2	
53.5～54.4	38	1	4
52.5～53.4	17	4	2
51.5～52.4	15	0	4
50.5～51.4	21	0	4
49.5～50.4	23	0	3
48.5～49.4	59	2	2
47.5～48.4	69	4	2
46.5～47.4	73	0	0
45.5～46.4	49	1	4
44.5～45.4	49	2	1
43.5～44.4	25	0	1
42.5～43.4	7	0	1
41.5～42.4	2	0	0
40.5～41.4	32	3	0
39.5～40.4	8		0
38.5～39.4	10		1
37.5～38.4	8		1
36.5～37.4	1		
	564	22	30

如意寺経全体では約三七～五七センチまで広がり、約四五～四九センチがピークで、次のピーク約五四～五五センチや四一センチ前後に比べ倍ほど多い分布になっている。それに対し、常隆寺経は約四一～五六センチ、中山寺経は約三八～五四センチの分布を示している。ピークで見ると、常隆寺経は四八センチ前後と約五三～五六センチ、中山寺経は四六センチ前後と約五一～五四センチとなる。

サンプル数が少なく断定的なことは言えないが、各経の分布の特徴、すなわち中山寺経では例がない四一センチ前後で如意寺経は低いながら一つのピークを示し、また、中山寺経がピークの約五一～五二センチで如意寺経はピークを示していないのは、如意寺経に占める中山寺経の混合の割合が低く、如意寺経全体に及ぼす影響が少ないことに起因するのだろう。

また、如意寺経のピークである四七センチ前後には常隆寺経、中山寺経ともに該当例がなく、四八センチ前後で常隆寺経は四例、中山寺経は二例である。このことは、如意寺経に常隆寺経、中山寺経とは異なる四七センチ前後の料紙規格の経巻が含まれていることを示している。後述する巻第一五一（料紙規格四六・五センチ）は天承元年（一一三一）に石峯寺僧が執筆したものであり、このような他の平安時代後期の経巻も含み込んでいるといえる。

料紙規格の分析でも一巻ごとに如意寺本の中山寺経、常隆寺経を峻別することは困難であるが、全体としての特徴は以上の通り把握できるだろう。

#### 四、料紙の混合

ところで、長年にわたって大般若経を調査研究されている稲城信子氏はその経験から「混合経を構成しているものが大部分であった。

混合経は、異なる時代の經典が混じり合って六百巻を構成している経をいう。大般若経は通常、各時代の書写経や版経の入りまざった混合経として伝来し、しかも、当初の所蔵者を離れて伝来しているものがほとんどである」と指摘されている<sup>(10)</sup>。如意寺経はまさにその一例であるが、仔細に見ると、欠巻を別の大般若経の同じ巻次で補うだけでなく、欠失した料紙や補修の難しい料紙の部分だけを、別の大般若経の同じ巻次の該当部分を切り取り、継いで補っていると考えられる箇所が少なくない。欠損の部分を変えて書写するには底本が必要となるが、別の大般若経の遺巻を入手できれば底本は必要ない。しかも遺巻が古いもの、靈験あるものならば經典の功德が増すとして珍重されたのだろう<sup>(11)</sup>。このような補修手法について、これまで補写、補巻、補経など一般に経巻の補修を意味する用語と特に区別することなく言い表されてきたと考えるが、特定の用語をあてることの中世の写経事情の実態がより明瞭になるだろう。本稿ではこの方法を仮に補簡と呼ぶ。他の大般若経でもあり得る修復方法であるが、補写との区別が難しく、同時期の書写経による補簡であれば筆者の交代と判断されることが多いだろう。しかし如意寺経では、外形的な特徴から補簡と考えられる例がある。

巻第六一は平安時代後期書写の一筆経で、第十七紙では誤字の八字分の料紙を切り取り、他の経巻から切り取った短冊状の紙片を貼

如意寺所蔵の大般若経 — 平安時代後期の混合経の一例について —

る。幅の異なるもとの界線が確認できるため、補写ではなく古経を再利用したと考えられる(図3)。巻第四八〇も平安時代後期書写の一筆経で、卷子装の時に表紙から液状のものが浸み込んで起こった欠失が規則的に存在する。欠失の最初が首題部分であり、「大般若波羅蜜多経巻第四」と書かれた別の経巻の紙片を貼り、「八十」は補写する(図4)。これらも古経を利用した補簡の一種といえるだろう。

料紙規格が変わる紙継目で筆跡も変わる、書写時期が変わる、天地の横界線が大きくずれる、紙質・紙色が変わる、糊代の余白が十分でないため紙継の重なりで文字が一部隠れる、などの例が如意寺経では少なくない。何れも補簡の可能性が窺われるが、これらの要素だけでは補簡だと特定できない。巻第一〇一は第九、第十紙と第十二紙から第二十一紙までが当初の書写で平安時代後期、第二紙から第八紙までと第十一紙が鎌倉時代の書写、第一紙は南北朝時代頃の書写と考えられる。第十紙と第十一紙とで「眼」の文字が重複しているため、第十一紙は補簡の可能性も考えられるが、第十一紙と同筆と思われる第八紙の最後の部分は行間を詰めて書写する(図5)。これにより第九紙に継ぐための新たな補写と考えられ、従って第十一紙も補簡ではなく補写といえるだろう。このように補簡の判断には十分な検討が必要であるが、少なくとも次の事例は補簡と

認められる。

巻第一〇八は平安時代後期書写の部分を主体とするが、第四紙から第十二紙までが当初よりやや下降する。第三紙と第四紙の継目、第十二紙と第十三紙の継目でそれぞれ一行が重複し、更に横界線が大きくずれ、補写ではなく補簡と考えられる(図6)。巻第一五九は第五紙以降が当初の平安時代後期、第一紙が江戸時代、第二紙から第四紙までが補簡と考える。第四紙の最終行と第五紙の最初の行の継目で「舌身」の二字が欠ける(図7)。補写ならば当然書かれるはずであり、やはり既成の古経の該当部分を利用したのだろう。巻第三〇一は第三紙からが当初の平安時代後期の書写経、第二紙までは少しその時代は下降する。第二紙と第三紙の継目で「四」の文字が両方の料紙に書かれる。また、第二紙と第三紙では水損等の跡が大きく異なり(図8)、第二紙は補簡と考える。巻第三〇六は第十九紙までが平安時代後期の書写であるが、第三紙までと第四紙以降では書写時期が少し異なる。第三紙(最終行十八字)と第四紙(一行のみ、十八字)の継目で「浄」の文字が両紙で重複する(図9)。新たな書写なら次の文字から書き始めるはずであり、これらの自然な継目での重複する文字や欠字は補簡を見いだす有力な手掛かりといえる。

## 五、成り立ちと構成

如意寺経を構成する常隆寺経、中山寺経の料紙の特徴は以上のよう  
に把握できるが、ではどのようにして如意寺に集積されたのか、  
最初に書写された寺から検討する。

奥書(巻第三一〇、第三三二、第四七四、第四七五、第四七九、  
第四八〇)に見える常隆寺は播磨国三木郡(美囊郡)と明記されて  
いるが、早くに廃寺となったためか、不明である。常隆寺経は天養  
二年(一一四五)の当初から同郡の高男寺僧こうなんじの勸進により事業が進  
められた。常隆寺が廃寺となり、所縁の高男寺に移されたのだろう。  
巻第二〇一の奥書に常隆寺の文字はないが、文和二年(一一三三)  
に高男寺院主慶算による常隆寺経の修補事業が行われたことがわか  
る。

高男寺(三木市志染町高男寺)は明石郡に接する美囊郡志染に  
所在し、付近のため池から、勸進聖の進西が埋納した仁平三年  
(一一五三)銘経筒が出土したことで知られるが、現在は廃寺となり、  
詳細は不明である。大般若経書写の勸進は高男寺住僧の暹寂(巻第  
四七四、第四七五、第四七九)、聖寂(巻第三一〇、第四八〇)が  
中心となり、賢光(巻第三一〇、第三三二、第四七四)、女高橋氏(巻  
第四七五)、船木成重女文屋氏(巻第四八〇)、蓮西(巻第四七九)  
が結縁、助成する。賢光は執筆も分担(巻第四七五、第四八〇)す

るが、賢光の母は東播磨にひろがる住吉大社領の広大な柚山を管掌し、高男寺に近い縮見屯倉しじみのみやけの鉄製品などを船舶用に入手していた可能性のある松木氏(二二)の一族、文屋氏(二二)（巻第四七四、第四八〇）の出身であり、写経は非母の菩提を弔う目的だった。巻第三二〇に常隆寺、高男寺の寺名はないが、松木氏一族の供養のための写経であり、常隆寺経の一つといえる。

その後、院主慶算による修補事業を引き継いだのは寛舜（巻第一二六、第二四一、第二四三、第二七八、第三三五、第三三六、第三八九）である。来歴は不明だが、慶算による修補の際に外題を書いたのが六十四歳の覚海（巻第二〇一）であり、その法系の人物だろう。寛舜は明德五年（一三九四）三月十一日に巻第四七の全巻補写を始め、応永七年（一四〇〇）七月七日に巻第三三五を補写し終えている。巻第二五七には明德五年補写の奥書があり、それと同筆で「播州万勝寺常住」の書込みがあるので、遅くとも明德五年までには加東郡の萬勝寺（小野市万勝寺町）に常隆寺経が移されていたことと、寛舜は萬勝寺の僧とは名乗ってはいないものの、萬勝寺と繋がりのある僧であることがわかる。萬勝寺での整備は、巻第二一〇、第二八一を「満」勝寺の勸進聖安禪房祐善が文明元年（一四六九）に買得しているため、その頃はまだ整備が続けられており、如意寺への移動はこれ以降と考えられる。なお、巻第二五七

を右筆としてすべて補写した祐玄は、名前から前述の祐善と師弟の間柄が想定できる。

巻第五八三の積尊寺は、和泉国大鳥郡和田郷下条（堺市南区和田付近）に所在した寺院であるが、現存せず、詳細は不明である。久寿二年（一一五五）の奥書に「依聖人勸進」とあり、天養二年から十年経過しているが、高男寺の僧が依頼したもので、これも常隆寺経の一つであり、写経事業が継続していたことがわかる。

巻第一五一は天承元年（一一三一）に石峯寺僧の覚秀が執筆している。石峯寺は白雉二年（六五一）法道仙人の開基と伝え、常隆寺や高男寺と同じく美囊郡の古刹であるが、どのような経緯で如意寺経に含まれることになったのか、明らかにしたい。なお、石峯寺には平安時代に遡る史料は現存せず、巻第一五一は石峯寺の名が知られる初見の史料といえる。

一方、如意寺本の中山寺経で書写年代の奥書があるのは前述のとおり巻第一二七、第一二八の二巻であり、巻第一二七の第一紙と第二紙との継目でおよそ二十行の欠落があり、巻第一二八では第十一紙が補写である。中山寺経と思われる経巻の一部には、巻頭に近いところに水損などの被害や泥の汚れが見られる。成立から間もなく災害に遇ったと想定され、後述する治承五年（一一八一）中山寺東室での校合は水損対応のためではないかと推測される。

中山寺経に関する社町、加東市教育委員会の調査と考察<sup>(二四)</sup>によると、馬瀬経は卷子装で百四十八巻、上鴨川経は折本装で三百九十九巻が架蔵され、書写経が併せて三百八十七巻、春日版経が百六十巻（うち馬瀬経二巻）である。長治二年（一一〇五）に中山寺で書写され、治承五年には中山寺東室で校合された。建長五年（一二五三）書写の巻第二五〇（馬瀬経）に「仲山寺一部之内」とあり、その頃までは中山寺に伝来したとされる。その後、正中二年（一三二五）までに有馬郡槻瀬郷の蓮華寺（三田市下槻瀬）、大山寺（三田市小野、廃寺）に移り、欠巻の補写、校合などの整備が行われ、この時に版経での補填もあつたと考えられている。上鴨川住吉神社には天文五年（一五三六）に買得されて施入され、元和九年（一六二三）には馬瀬の住吉神社に巻第二〇一から巻第四〇〇までが分置されることになった。

それでは如意寺本の中山寺経ほどの段階で別れたのかといえ、中山寺経が槻瀬郷に移るまでの間に分離し、如意寺に伝来することになったと考える。如意寺本中山寺経には平安時代末期から鎌倉時代前期と思われる補写が少なくないが、鎌倉時代後期の蓮華寺での補写、補修などの痕跡がなく、欠巻の補充に版経を用いず、補写だけでなく補簡の手法をとるなど、馬瀬本、上鴨川本中山寺経とは、大般若経整備に関する考え方の違いが明瞭であると指摘できる。

ところで、「如意寺旧記」<sup>(二五)</sup>には、文応元年（一二六〇）、樋谷保司衣笠法眼なる人物が如意寺に「祈禱所而吳道士ノ筆ノ十六善神、弘法ノ筆ノ三尊大不動并大般若経六百内絹幡三流當山ニ寄附」したと記されている。衣笠とは後に三木の別所氏の一族として活躍する衣笠氏のことだろう。十三世紀後半の段階で衣笠法眼という人物が存在して保司という立場で樋谷を管掌していたとは考えられないが、その頃に大般若経の施入があつたことまでは否定できない。「如意寺旧記」は近世に何らかの史料をもとに編年でまとめたもので、衣笠氏との繋がりを強調する点は後世の付会だろうが、この頃に入手したと伝えられていたのではないだろうか。六百巻ではなく「六百内」という記載に真実味が感じられる。前述したとおり、中山寺経の槻瀬郷への移動が建長五年から正中二年の間であることも符合する。巻第一六〇、第四七七の二巻に見える「如意寺」の書き込み(図2)は、私の浅見かも知れないが、その頃の加筆と考えられ、中山寺経の一部が如意寺に移動したのは鎌倉時代後期と言える。

このように考えると、中山寺経と常隆寺経との混合の時期は、萬勝寺での存在が確かな文明元年以降で、混合の場所は如意寺と考えるのが妥当だろう。その時期の下限は、如意寺での大般若経の存在が推測できる大明石の岩屋社拝殿での雨乞い行事があつた天正三年（一五七五）と考えられる。ただしこの行事の参加をめぐって明石



郡伊川谷の太山寺（神戸市西区伊川谷町前開）との間で軋轢（二六）がおこり、如意寺の般若経が転読されることはなかった。

## 六、おわりに

当初の目的であった各巻の峻別は、六百巻の分量に格闘するばかりで、有効な方法を見いだすことはできず、構造分析には至らなかったが、その特徴、如意寺に集約されるまでの経緯については見通しを立てることができた。なお、紙幅の検討では、料紙規格の頻度について分析を試みたが、各料紙の幅別の使用頻度の検討には至らなかった。今後の課題としたい。

最後になりましたが、長期にわたる調査を快くお許しいただきました如意寺の御住職、宇代隆信氏に改めて感謝申し上げます。また、博物館の皆様の長年にわたるご協力にお礼申し上げます。

- 一 神戸市教育委員会編集・発行『神戸市文献史料』第二巻（一九七九）
- 二 神戸市立博物館編『神戸の文化財Ⅱ―神戸市指定文化財を中心に―』展図録（神戸市教育委員会、二〇〇七）
- 三 本稿では便宜上、書写、伝来、現存の寺院名等から如意寺経などと

表記するが、その般若経のうち、例えばかつて常隆寺で書写された一群を指す場合は、通例に倣い如意寺本の常隆寺経と表記する。また装丁が折本装の場合でも巻と表記することがある。

- 四 改装の修理名から、櫛谷の村々で分担されて、天保十四年（一八四三）四月から六月に実施されたことがわかる。寺谷村は六月に巻第一から第五〇まで、栃（枋）木村は巻第五一から第六〇まで、池谷村は四月に巻第六一から第八〇まで、長谷村は巻第八一から第一〇〇まで、友清村は六月に巻第一五一から第一八〇までの裏表紙の裏などに結縁した村人の名前を記している。また、十帖単位で収める経帙のうち、巻第五一からのものには栃木村、巻第七一からには池谷村の墨書がある。なお、巻第一八一以降も同じ仕様での改装であるが、巻第五七一を除き、結縁の墨書はなくなる。巻第五七一は、垂水村（明石郡）の弥三郎が天保十四年三月に結縁したものである。櫛谷は天保十四年四月から六月であり、三月時点ではまだ櫛谷の村々の結縁がどこまで広がるのか、想定できないため、弥三郎は最後に近い巻第五七一にしたのだろう。

欠失巻の書写は改装事業の目処が立つてから行われ、天保十四年五月から嘉永三年（一八五〇）二月までの期間である（詳細は【奥書・識語等（江戸時代）】を参照されたい）。書写を担ったのは村人ではなく、如意寺の塔頭や近辺の寺、櫛谷の名家のほか、明石城下の商家、兵庫熊内の有力家であった。ただし、法泉寺（神戸市西区櫛谷町栃木堂ノ前、浄土宗）は弘化三年（一八四六）九月に巻第五八一を書写、同年十一月に巻第一〇三の修理に結縁している。

五 本稿では触れないが、多くの巻の料紙紙背に種々の押印、花押に似たマークが紙継目以外の箇所にも見られる、また、巻第五四〇では文字の濃淡を組み合わせて意匠を表すなどの遊びも見られる。

- 六 中村善則、問屋真一「石峯寺如法般若経について」（『神戸市立博物館研究紀要』第一一号（一九九四））
- 七 奈良国立博物館編集・発行『慈光寺所蔵「般若経（安倍小水麻呂願経）」の調査と研究』科研「平安時代の『般若波羅蜜多経』遺品

の総合的調査と歴史研究資料としての資源化」成果報告書(二〇一七)、国際仏教学大学院大学編集・発行『根津美術館蔵「春日若宮大般若経および春日厨子」調査報告書』(二〇一八)

八 田岡香逸(上嶋川)住吉神社蔵大般若経について『史迹と美術』二七一号(史迹美術同友会、一九五七)、「馬瀬」住吉神社蔵大般若経について『同二九〇号(一九五九)』。

九 調査にあたっては、加東市教育委員会から格段のご配慮をいただき、種々ご教示を賜りました。記して感謝申しあげます。

一〇 稲城信子『日本中世の経典と勸進』(塙書房、二〇〇五)一三七頁

一一 山本信吉「西予市三瓶町地福寺所蔵の『大般若経』について」『愛媛県歴史文化博物館研究紀要』第一四号(二〇〇九)、土居聡朋「愛媛県西予市宇和町神久寺所蔵の大般若経について」『同研究紀要』第一七号(二〇一七)

一二 坂江涉「賀茂郡の住吉大社領と船木連氏」『加西市史編へん委員会だより』第二号、同「賀茂郡内の杣山と船木連氏」加西市史編さん委員会編『加西市史』第一巻 本編1 加西市発行(二〇〇八)

一三 建徳元年(一三七〇)七月「某御教書、同「橋本正督施行状」(久米田寺文書)岸和田市史編さん委員会編『岸和田市史』第六巻 史料編1 岸和田市発行(一九七六)

一四 社町編『社町史』第三巻 史料編1(河村昭一分担解説)(二〇〇一)、同『社町史』第一巻 本編1 社町発行(二〇〇七)、

加東市教育委員会編集・発行『加東市の文化財』展図録(二〇一六)、加東市・多摩美術大学美術館編集・発行『神仏 人心願の地』展図録(二〇一八)

中山寺経を収載する史料集には、田岡氏の奥書に関する報告(註八)を引用するものが少なくない。田岡氏の調査では、奥書等のある十三卷(巻第二一〇、第二一三、第二一四、第二二〇、第二七〇、第二九〇、第四二二、第四二八、第四二九、第四七四、第五一八、第五三〇、第五七〇)の長治二年九月十日経の存在が略報されたが、社町、加東市の調査による右記の文献では傍線付きの巻は収載されてい

ない。また、巻第四七〇、第五二六の奥書は田岡氏の報告にないが、『社町史』に収載されている。

一五 「如意寺旧記」兵庫県史編集専門委員会編集『兵庫県史』史料編中世4 兵庫県発行(一九八七)

一六 「岩屋殿雨請記録」(太山寺文書)兵庫県史編集専門委員会編集『兵庫県史』史料編中世2 兵庫県発行(一九八七)

【奥書・識語等】

※、( ) は編者の註、  
①は経文の最後の料紙を示す

(首題下、改装時の裁断で文字痕跡)

大般若波羅蜜多經卷第廿五

□□□□

大般若波羅蜜多經卷第四十一

一交了

明德五<sup>甲</sup>三月十七日

大般若波羅蜜多經卷第四十三

応永四丁丑六月七日

覚

大般若波羅蜜多經卷第四十七

一交了

明德五年<sup>甲</sup>三月十一日

令書写了

大般若波羅蜜多經卷第六十

応永四丁丑六月九日

※①と同筆

大般若波羅蜜多經卷第六十三

応永四丁丑六月十二日

※①と同筆

大般若波羅蜜多經卷第七十五

応永四丁丑六月十三日

※①と同筆

大般若波羅蜜多經卷第九十六

応永四年丁丑六月十八日

大般若波羅蜜多經卷第一百廿五

秦是里女財田氏

※①と同筆

大般若波羅蜜多經卷第一百廿六

応永四丁六月晦日

覚舜

※①と同筆

大般若波羅蜜多經卷第一百廿七

一交了(異筆)

仲山寺 經一部内

長治<sup>二</sup>年<sup>乙</sup>九月十日 甲始之筆取僧応実

※①と同筆

大般若波羅蜜多經卷第一百廿八

..... (紙継目) .....  
校了(異筆)

仲山寺大般若經一部

長治二年<sup>乙</sup>九月十日<sup>甲</sup> 始奉書写矣 願主僧賢昭

筆師僧舜意也

※①と同筆

大般若波羅蜜多經卷第一百五十

..... (紙継目) .....

天承元年六月廿三日 石峯寺僧執筆覚秀

一交了(異筆)

※①と同筆

大般若波羅蜜多經卷第一百六十

一交了(異筆)

如意寺常住

※①とは異筆

大般若波羅蜜多經卷第二百一

播州

文和二年<sup>癸</sup>八月中奉修理高男寺院主

阿闍梨慶算授小財於六百軸結值遇於

慈尊朝 外題右筆沙門覚海

六十四歳

※①とは異筆

大般若波羅蜜多經卷第二百一十

(政行余白 本文とは異筆)  
満勝寺常住

(奥書)

播州賀東郡満勝寺 勸進 擦り消し  
聖安禪坊祐善

文明元年十月廿日買 生年四十四歳也

大般若波羅蜜多經卷第二百四十一

明德五年<sup>甲</sup>三月廿日 覚舜

※①と同筆

大般若波羅蜜多經卷第二百四十三

応永四年丁丑七月廿八日 覚舜書之

※①と同筆

大般若波羅蜜多經卷第二百五十一

(改行余白、本文とは異筆)  
満勝寺常住

大般若波羅蜜多經卷第二百五十二

満勝寺常住

大般若波羅蜜多經卷第二百五十七

明德伍年四月十一日 右筆助書祐玄

播州万勝寺 常住

大般若波羅蜜多經卷第二百五十八

為法界衆生平等利益 市フミ藤祐

勸進日富

一交了

大般若波羅蜜多經卷第二百六十

播州万勝寺常住

大般若波羅蜜多經卷第二百七十八

応永四丁丑七月十八日

覚舜  
※①と同筆

大般若波羅蜜多經卷第二百八十一

龍朔元年 月廿日於玉花寺玉花殿三藏

法師玄奘奉 詔訳

文明元年買

勸進聖 安禪坊祐善 ※①とは異筆

大般若波羅蜜多經卷第二百八十六

(第) 此手次代ハ藤田伊左衛門と仕候

大般若波羅蜜多經卷第二百十

天養二年 歲次 乙丑 三月十三日播万国三木郡常隆寺書

勸進聖人 高男寺住僧聖舜 結縁僧 賢光

為現世安穩後生善處奉助成耳

大般若波羅蜜多經卷第二百廿

為女松木氏尊靈一人同三良尊靈成仏

大般若波羅蜜多經卷第二百卅二

.....(紙継目).....

天養二年 歲次 乙丑 七月廿三日三木郡常隆寺書畢

結縁助成僧 賢光

大般若波羅蜜多經卷第二百三十五

応永七年 庚辰 七月七日 構了 覚舜

大般若波羅蜜多經卷第三百卅六 (卅)

応永七年 庚辰 年六月二日 覚舜

大般若波羅蜜多經卷第三百八十九

応永二年 乙亥 閏七月八日 覚舜

大般若波羅蜜多經卷第四百七十四

天養二年 歲次 乙丑 二月三日三木郡常隆寺書畢

勸進聖人 (高男寺 擦り消し) 住僧暹舜 結縁衆僧賢光

過去悲母 (文屋□□□ 擦り消し) 所生三人尊靈往生極樂

頓證菩提耳 仍結縁助成意趣以如斯

大般若波羅蜜多經卷第四百七十五

天養二年 歲次 乙丑 二月中旬常隆寺書寫畢

勸進聖人高男寺住僧暹舜 助成衆女高橋氏 為現世安穩後生菩提助成耳 筆師僧賢光

※①と同筆

大般若波羅蜜多經卷第四百七十七

如意寺

※①と異筆

大般若波羅蜜多經卷第四百七十九

天養二年<sup>歲次</sup>乙丑三月十三日播万国三木郡常隆寺書畢

勸進聖人<sup>(高男 擦り消し)</sup>住僧<sup>(世)</sup>運<sup>(世)</sup>結縁共僧蓮西

為智恵辯才利根利現世安穩後生并提書耳

大般若波羅蜜多經卷第四百八十

天養二年<sup>歲次</sup>乙丑三月十日播万国三木郡常隆寺

書写已畢 勸進聖人高男寺住僧

聖拜 結縁助成衆船木成重女文屋氏

数多所生現世安穩後生善處故

殊致精誠之誠助成之状 執筆賢光

大般若波羅蜜多經卷第五百二十七

阿妙

沙弥前書写也

大般若波羅蜜多經卷第五百八十三

一交了

久寿二年正月廿五日 和泉州大鳥郡和田郷下条

釈尊寺住僧嚴尊

依聖人勸進 以写般若徳 願共諸衆生 往生安<sup>樂</sup>。国

※「二交了」と「久寿」は同筆力

如意寺所蔵の大般若經 — 平安時代後期の混合經の一例について —

【奥書・識語等（江戸時代）】

大般若波羅蜜多經卷第三十六 ※尾題なし

弘化三丙牛歲八月八日 山王社 鶴齋

大般若波羅蜜多經卷第九十一

維時弘化四年<sup>丁未</sup>三月 永野弘孝謹書写之

大般若波羅蜜多經卷第一百二

清岳良淨信士 頓証菩提

為 心窓妙安信女

弘化三<sup>丙</sup>午歲霜月下旬於清養山

法泉寺<sup>性善房</sup>書之

大般若波羅蜜多經卷第一百二十一

弘化四未歲正月廿六日写之

靈嶺

大般若波羅蜜多經卷第一百二十四

干時弘化二<sup>乙</sup>己歲

七月晦日 書写之

天台沙門即因<sup>印</sup>（朱文方印）

大般若波羅蜜多經卷第一百九十一 ※奥書は尾題の前

翫王院

即眞

大般若波羅蜜多經卷第二百四

弘化參<sup>丙</sup>午 載季穉中旬六日

菅宗采美写之（篆書体）

大般若波羅蜜多經卷第二百二十九

嘉永二歲次<sup>己</sup>西 閏四月念四日

沙門貫泰謹啓

大般若波羅蜜多經卷第二百四十五

干時弘化式<sup>乙</sup>巳年

（※尾題なし）

八月四日

天台沙門 即因<sup>印</sup>（朱文方印）

書写之

大般若波羅蜜多經卷第二百七拾六

弘化三<sup>丙</sup>午年霜月中旬

比金山如意寺

圓性謹書之

大般若波羅蜜多經卷第二百八十九 律

維時嘉永三<sup>庚</sup>戌年二月

永野弘孝欽書写之

大般若波羅蜜多經卷第二百四 調

正因房

書之

大般若波羅蜜多經卷第二百二十一 陽

維時嘉永元年<sup>戊</sup>申十二月

永野弘孝書写之

大般若波羅蜜多經卷第二百一十四 陽(※見返しに書込)

書写主

施主

大般若波羅蜜多經卷第二百一十五

書写主

施主

大般若波羅蜜多經卷第二百一十六

書写主

施主

大般若波羅蜜多經卷第二百一十七

書写主

施主

大般若波羅蜜多經卷第二百一十八

書写主

施主

大般若波羅蜜多經卷第二百一十九

書写主

施主

大般若波羅蜜多經卷第二百二十

弘化丁未初四 八月上旬 義清

閣茅舎

為蓮堂和尚(※裏表紙裏)

大般若波羅蜜多經卷第三百七十三 結

天保十四季 癸卯六月 永野弘孝謹書写之

大般若波羅蜜多經卷第三百七十五

天保第十五龍次甲辰年五月

永野弘孝謹書写之

大般若波羅蜜多經卷第四百一十七

嘉永元 戊申年九月吉祥日

翫玉院三而

教純写之

大般若波羅蜜多經卷第四百九十二

弘化丁未初四稔菊月下旬拜書

大般若波羅蜜多經卷第五百一十二

兵庫熊内

※小兵衛筆は①のみ

大般若波羅蜜多經卷第五百四十七

弘化第二曆乙巳仲夏之候

永野姓弘孝欽書

大般若波羅蜜多經卷第五百七十四

.....(紙継目).....

于時弘化二乙巳年

八月八日 書写之

如意寺淨泉院

清範

.....(紙継目).....

弘化二乙巳年

八月

清範書写之

大般若波羅蜜多經卷第五百七十五

天保十有四年 癸卯冬十有二月吉祥日

永野三二太良弘孝

謹書写之

大般若波羅蜜多經卷第五百八十一

弘化三丙午年菊月下旬於清養山法泉

寺謹書之

性善房

為蓮堂和尚佛果僧位

大般若波羅蜜多經卷第五百八十五

維時天保十五祀甲辰九月

永野弘孝欽書

大般若波羅蜜多經卷第五百九十九

弘化四丁未年霜月十一日畢

為權大僧都法印永範大和尚菩提

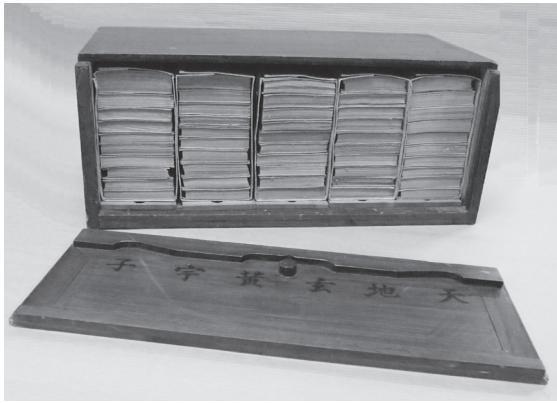
如意寺淨泉院内

実静房書之

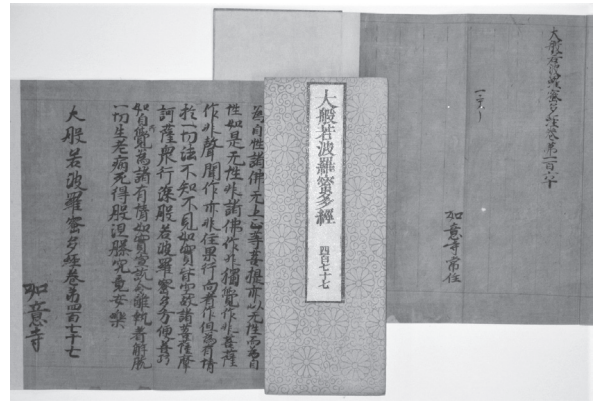
印印 (朱文方印)

【修理銘】(特に記載していない限り、墨書は裏表紙の裏の部分)

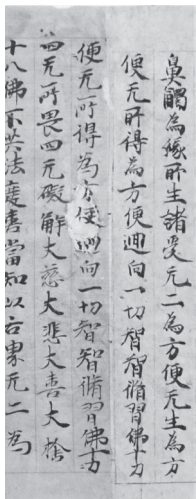
巻次	修理銘	巻次	修理名
1	覚月了悟大姉/天保十四癸卯年六月十七日/施主寺谷村/源兵衛	65	覚応浄頼信士/円応妙覚信女/安養妙心信女/施主池谷村/吉兵衛
2	覚翁了円居士/悟天保十四癸卯年六月十七日/施主寺谷村/源兵衛	66	覚阿清心信士/無縁法界/施主池谷村 伊左衛門 /同村/忠左衛門
3	先祖代々菩提/天保十四癸卯年六月十七日/施主寺谷村源兵衛	70	施主池谷村/ 元三郎
4	秋月恵照信士/天保十四癸卯年六月十七日/施主小神村/伊左衛門	巻71~80の帙表紙裏 天保十四癸卯/四月 施主/池谷村銘々	
5	為 先祖代々/施主寺谷村/角左衛門/磯吉	71	施主 池谷村/先祖代々/先祖代々/庄右衛門 兵太夫/善兵衛 藤兵衛/定兵衛 太兵衛/久左衛門 兵治良/以上(本紙)
6	先祖代々/施主寺谷村 幸左衛門/久兵衛 吟蔵/乙松 吉左衛門	72	心元義空信士/先祖代々/施主池谷村/利兵衛/伊三良
8	家内安全/施主寺谷村 磯治郎	73	親月妙光禪定尼/親光量啓禪定門/施主/池谷村/市兵衛
11	為 一翁円西信士/施主寺谷村 九兵衛	74	清雲自光信士/清室妙光信女/施主池谷村 作兵衛
12	為 庸亡童子/施主寺谷邑 九兵衛	75	窓月智貞信女/春円清光信士/施主池谷村/卯兵衛
13	覚月静翁信士/施主 寺谷村 市兵衛	76	先祖代々/施主池谷村/治兵衛
14	家内安全/施主寺谷村 常三郎	77	先祖代々/光月妙恵信女/施主池谷村/重右衛門/九兵衛
15	商売繁盛/施主寺谷村 常三良	78	円覚義法禪士/親月照順信士/安月妙光信女/施主池谷村/清兵衛
16	家内安全/施主寺谷村 清右衛門	80	先祖代々/施主池谷村/弥次兵衛
17	先祖代々/発光浄慶信士/寺谷村 吟兵衛 伊左衛門	81	林啓徳翁禪定門/林光妙周信女/施主長谷村/義三蔵
18	家内安全/施主 寺谷村 兵治郎	82	春山明覚信士/先祖代々/先祖代々/施主長谷村/辰五郎/六兵衛/政次良
19	為 先祖代々/施主寺谷村 清兵衛	83	秋月浄観信士/智岡妙涼信女/施主長谷村/兵助
20	為 春林清光信士/施主寺谷村 久右衛門	84	施主長谷村/九兵衛/幸左衛門/八百蔵/作平/喜兵衛/義三良/庄吉/嘉兵衛
21	玉露童女/六親眷屬/施主 寺谷村 /久蔵 同主計 /養母	85	先祖代々/施主長谷村/弥三郎
22	天保十四癸卯年六月十七日/観山善空信士/施主寺谷村/力三郎	86	先祖代々/施主長谷村/与左衛門
23	円采友松齋源利一居/定郎手旬信女/峯月浄見信士/寺谷村/主計妻 同/義右衛門	87	円峯妙相信女/台岳常円信士/施主長谷村/弥平次
24	請山友観信士/珍山浄体信女/施主 寺谷村/作治平	88	先祖代々/施主長谷村/徳右衛門
25	一心徳入信士/施主寺谷村/宇兵衛	89	先祖代々/施主長谷村/作兵衛
26	先祖代々/施主寺谷村/宇兵衛	90	心岸了源信士/施主長谷村 久右衛門/五巻之内
27	家内安全所願成就/施主寺谷村/庄兵衛	92	秋山了海信士/施主長谷村/久右衛門/五巻之内
29	家内安全/施主寺谷村/兵五郎	93	春光妙円禪定尼/施主長谷村/久右衛門/五巻之内
30	先祖代々/施主寺谷村/仙治良	94	春山宗悦信士/施主長谷村/久右衛門/五巻之内
31	為 先祖代々/施主/寺谷村 治兵衛	95	知法妙性信女/施主長谷村/久右衛門 /五巻之内
32	為 先祖代々/施主/寺谷村/治兵衛	96	先祖代々/施主長谷村/宗左衛門
33	為 先祖代々/施主/寺谷村/儀兵衛	97	先祖代々/施主長谷村/定右衛門
34	為 春岸妙善信女/了涼月通性信士/霊/施主寺谷村/長兵衛	98	寂月浄光信士/寂岸教覚信士/冥/施主長谷邑・彌治兵衛
35	為 義山実運信士/秋月道光信士/施主寺谷邑/安右衛門	99	先祖代々/施主長谷村/治兵衛
37	為 宝華池生信士/先祖代々/施主寺谷村/与一左衛門/同/作左衛門	100	施主長谷村/善右衛門/伊右衛門/善三良/フサ/清右衛門/八良兵衛/義右衛門
38	為 性円光徳信士/施主/寺谷村/徳左衛門	151	天応了月信士/施主友清村/徳左衛門
39	為 先祖代々/施主/寺谷村/忠兵衛	152	天保十四年癸卯年六月/施主友清村/徳左衛門/家内安全
40	為 深山喜廣信士/施主/寺谷邑 忠兵衛	153	家内安全/施主友清村/銀兵衛
41	為 法山量源信士/施主/寺谷村/藤左衛門	154	家内安全/施主友清村/茂三郎
42	為 法岸妙量信女/施主/寺谷村/藤左衛門	155	如蓮自照信士/施主友清村/太三郎
43	息災延命/施主/寺谷村 忠兵衛内/まき	156	先祖代々/施主友清村/作兵衛
44	為 先祖代々/施主/寺谷村/草左衛門	158	先祖代々/施主友清村/宗五良
45	為 一頓元乘居士/先祖代々/施主・寺谷村・庄太夫	159	家内安全/施主友清村/宗五良
46	為 一翁清桃大姉 /施主/寺谷村/庄太夫	161	天保十四癸卯年六月/施主友清村/藤右衛門/台峯理観信士/台峯理覚信女
47	為 春山良慶信士/施主/寺谷村/庄太夫	162	先祖代々/施主友清村/藤兵衛
48	為 徳応道隣信士/先祖代々/施主/寺谷村/栄助/善兵衛	163	先祖代々/施主友清村/藤右衛門
50	為 定性童子 施主/寺谷村/伊兵衛	164	家内安全/施主友清村/藤右衛門
巻51~60の帙表紙裏 朽木村銘々		165	国家安全/施主友清村/藤右衛門
51	商売昌栄 施主/朽木村/治兵衛	166	家内安全/家内安全/施主友清村/与左衛門/同/安太郎
52	商売繁栄/施主/朽木村/与兵衛	167	家内安全/施主友清村/嘉兵衛
53	家内安全/施主/朽木村/勝三郎/忠兵衛/市太郎/茂右衛門/直次郎/仁兵衛/政次良	168	先祖代々/施主友清村/岩二良/先祖代々/同/源右衛門
54	法性常恵信士/諦覚妙空信女/施主 朽木村/林兵衛/芳兵衛	169	大法理覚信士/施主友清村/源兵衛門
55	先祖代々/施主 朽木村/長兵衛	170	先祖代々/施主友清村/与左衛門
56	先祖代々/先祖代々/施主 朽木村/弥次兵衛/茂兵衛	171	隻屋定讃信士/施主友清村/喜右衛門
57	先祖代/施主 朽木村/弥兵衛/猶右衛門	172	先祖代々/施主友清村/喜右衛門
58	昌山浄栄信士/清雲妙智信女/施主朽木村/九兵衛	173	先祖代々/施主友清村/宗兵衛
59	其力屋妙理信女/寛月道融信士/月峯妙融信女/丹峯妙仙信女/施主朽木村 源右衛門	174	先祖代々/施主友清村/善治良
60	白順清桃信士/鏡岳妙照信女/施主朽木村/猶右衛門/平右衛門/莊兵衛/勝三郎	175	先祖代々/施主友清村/義兵衛
61	信心堅同所願成就/施主池谷村/山本氏源兵衛	176	家内安全/家内安全/施主友清村/猶治良/同/作兵衛
62	宝岸寿啓居士/宝月寿貞信女/先祖代々/施主池谷村 小池宗兵衛	177	家内安全/施主友清村/善治良
63	宝岸浄翁信士/観光定戒信士/施主池谷村/忠三郎/同村吉兵衛志/王子四良兵衛	178	先祖代々/施主友清村/幸左衛門/常三郎/義三良/栄蔵
64	先祖代々/施主池谷村/与治右衛門/清治郎	179	先祖代々/施主友清村/佐右衛門
		180	先祖代々/施主友清村/銀兵衛
		571	天保十四年卯/三月/施主/垂水村/弥三郎



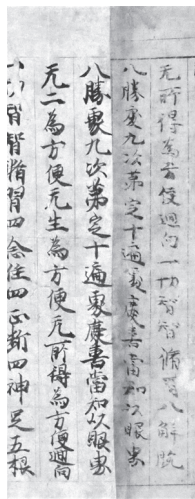
【図2】 卷第1～50の5帙（50帖）を収納する木箱（飾り付き落とし蓋）



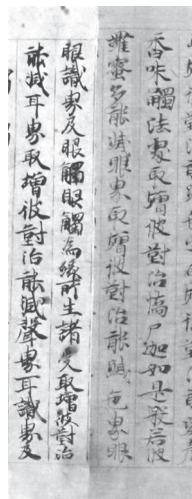
【図1】 卷第477 第17紙 奥書 表紙 第16紙 奥書 卷第160



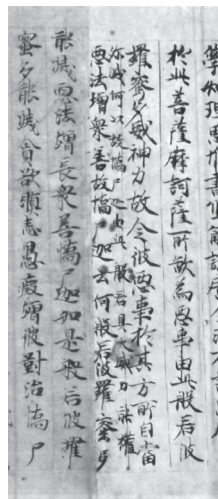
第13紙 ▲  
【図6】 卷第108



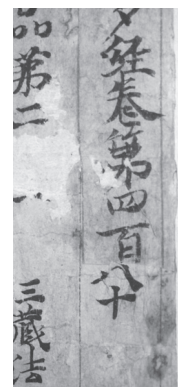
▲ 第3紙



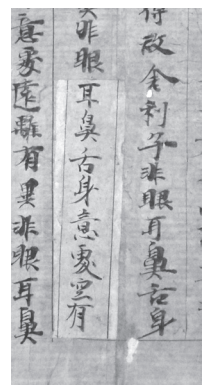
▲ 第10紙  
【図5】 卷第101



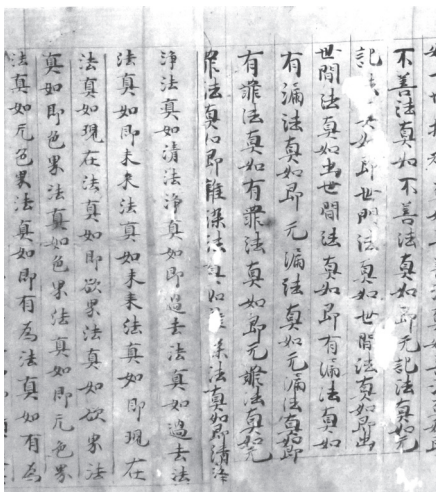
第9紙▲



【図4】 卷第480 首題

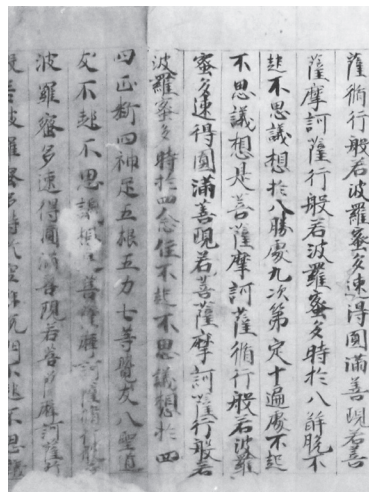


【図3】 卷第61 第17紙



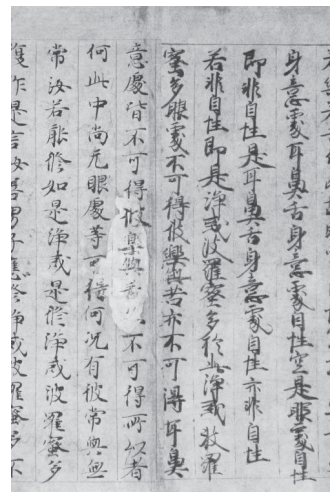
▲ ▲ 第3紙

【図9】 卷第306



第3紙▲

【図8】 卷第301

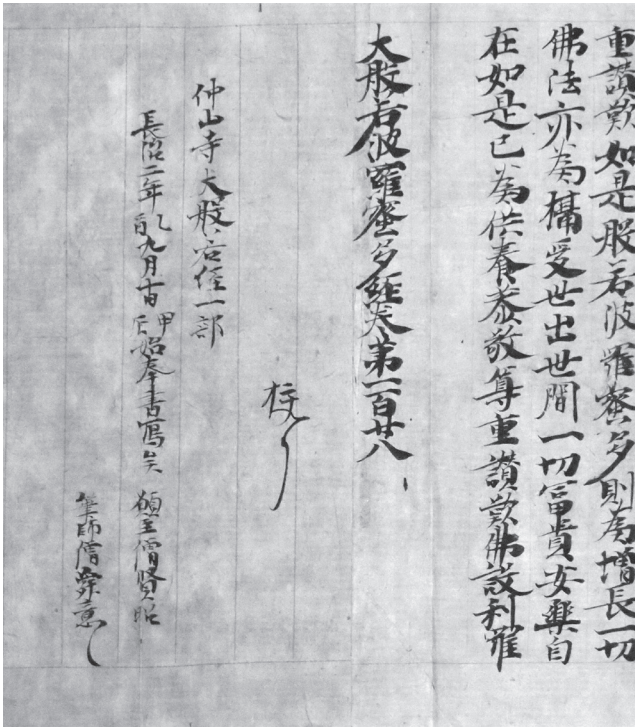


第5紙▲

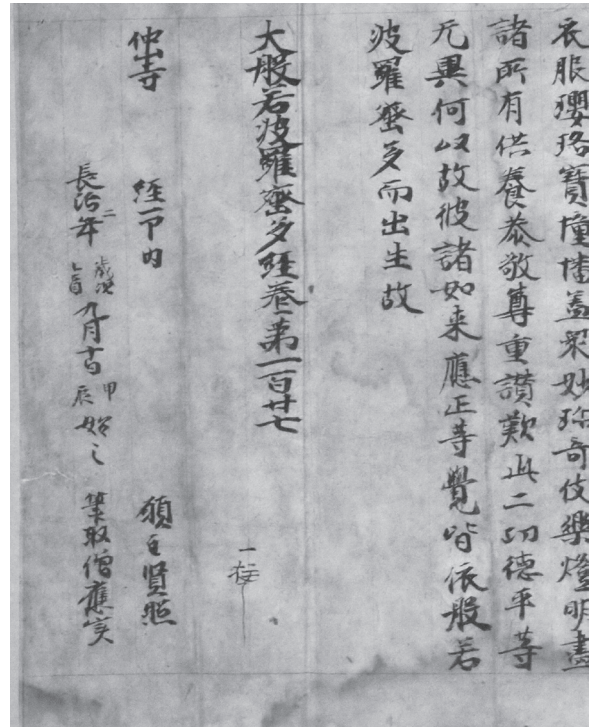
【図7】 卷第159

(▲は紙継目を示す)

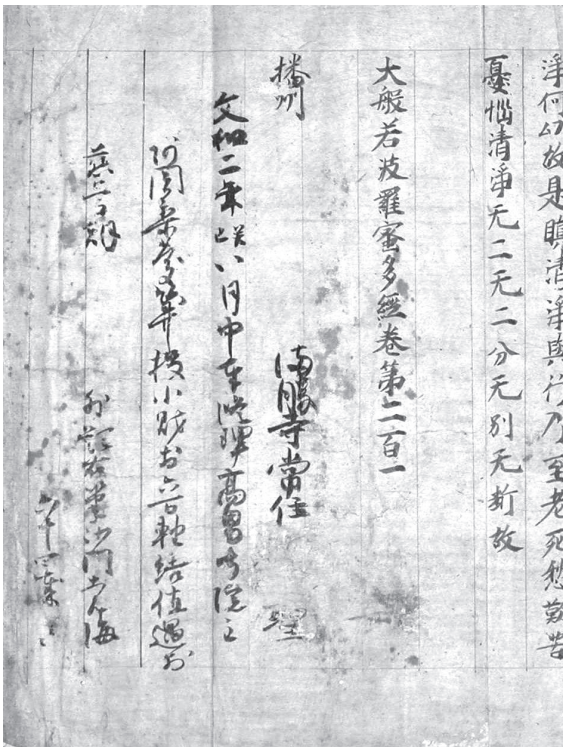




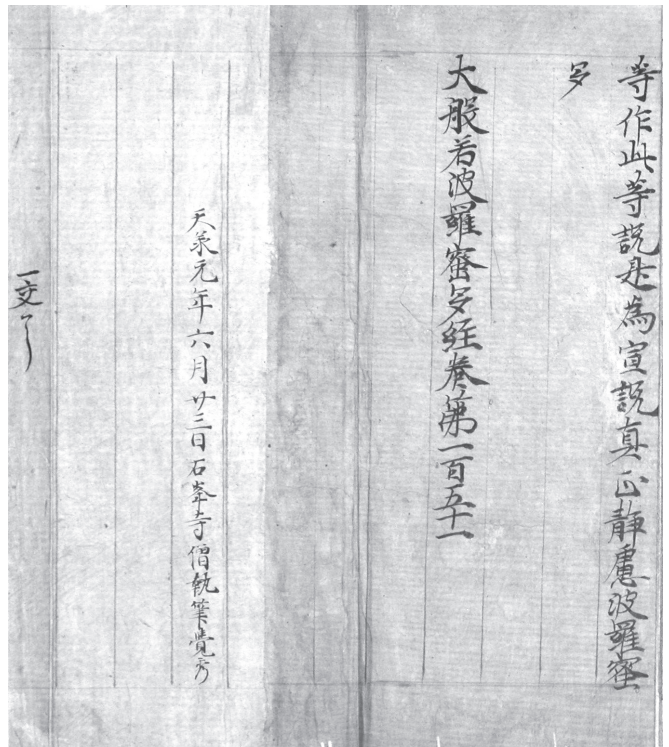
卷第 128



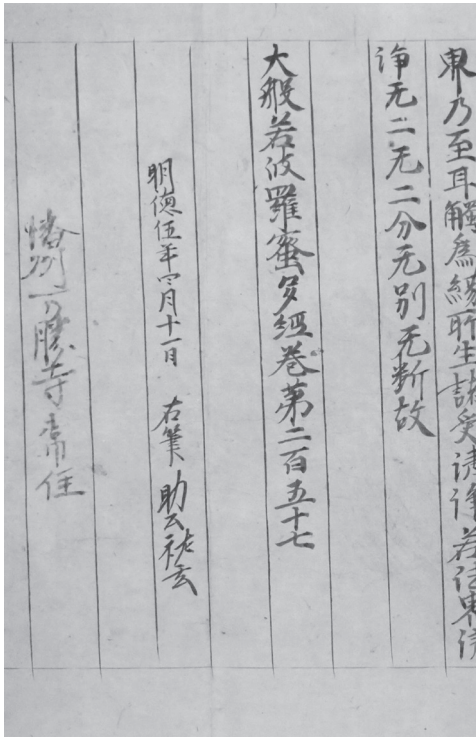
卷第 127



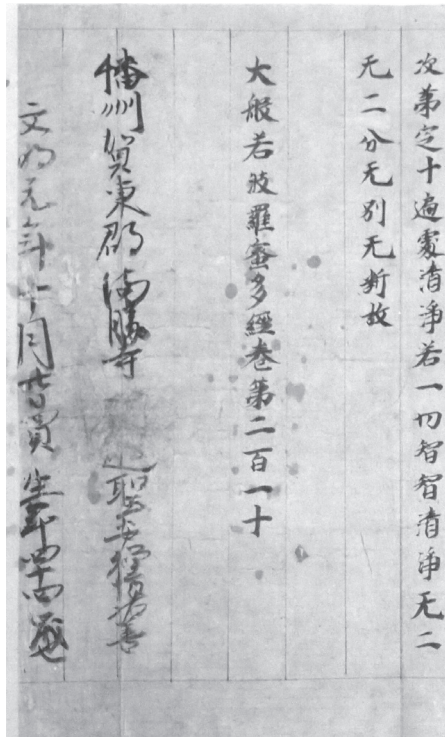
卷第 201



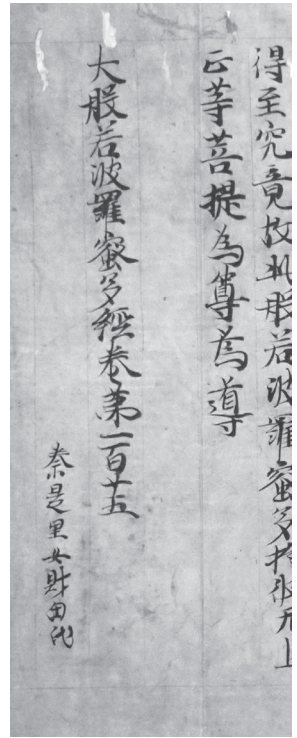
卷第 151



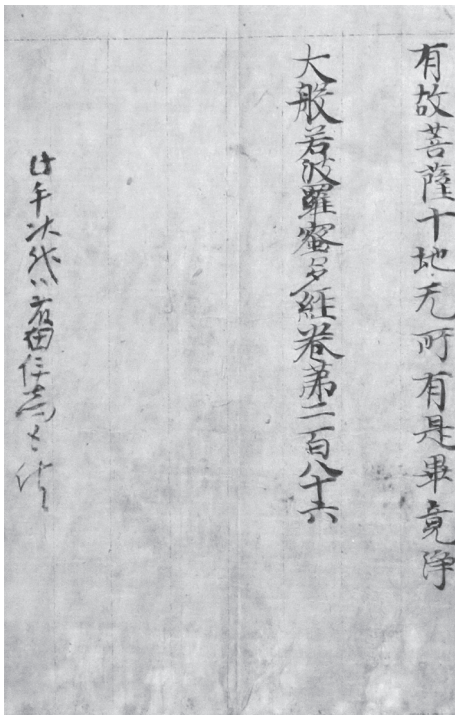
卷第 257



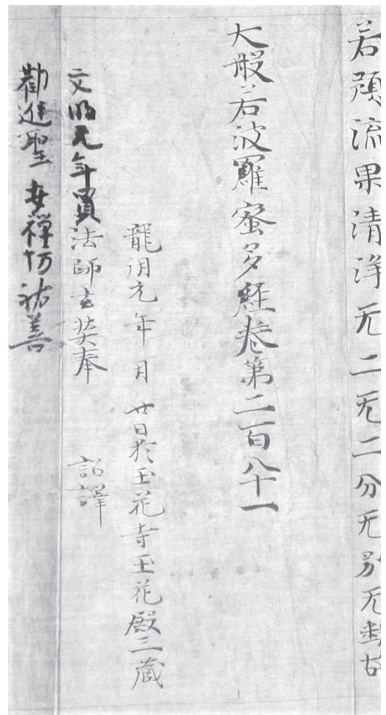
卷第 210



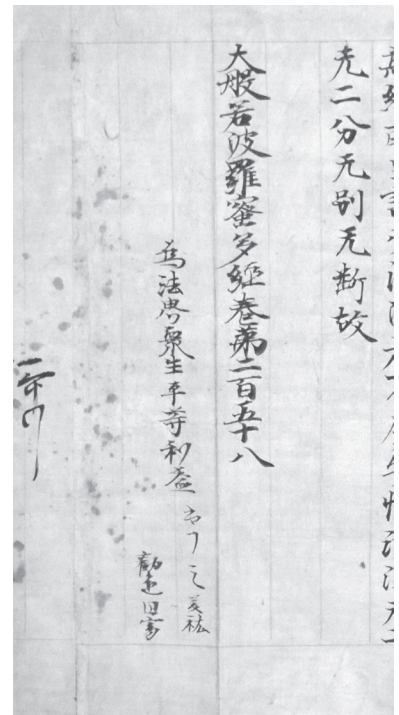
卷第 125



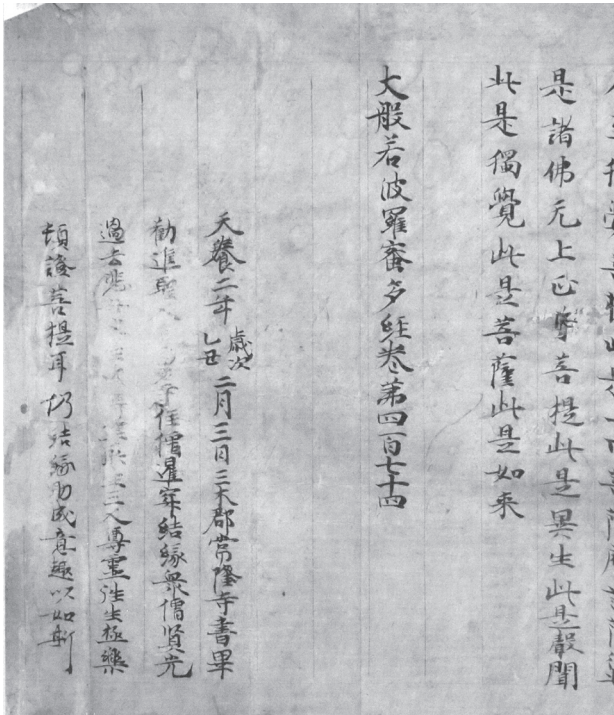
卷第 286



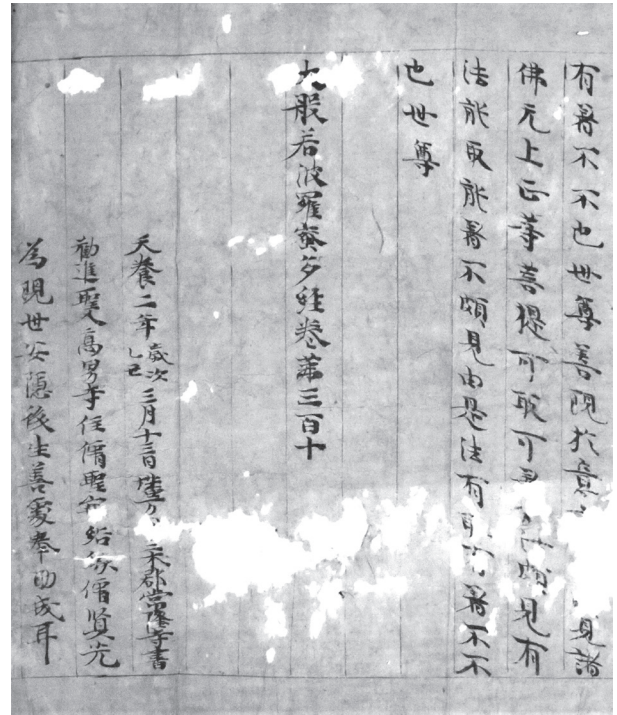
卷第 281



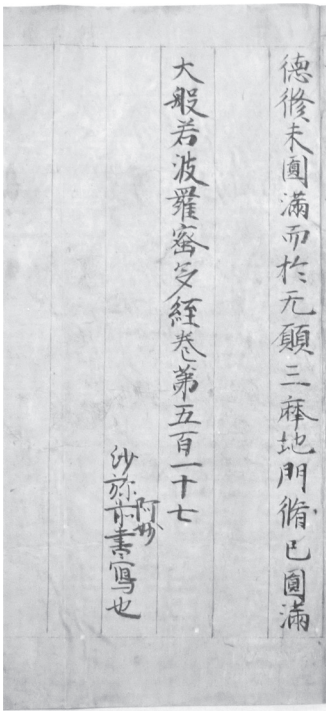
卷第 258



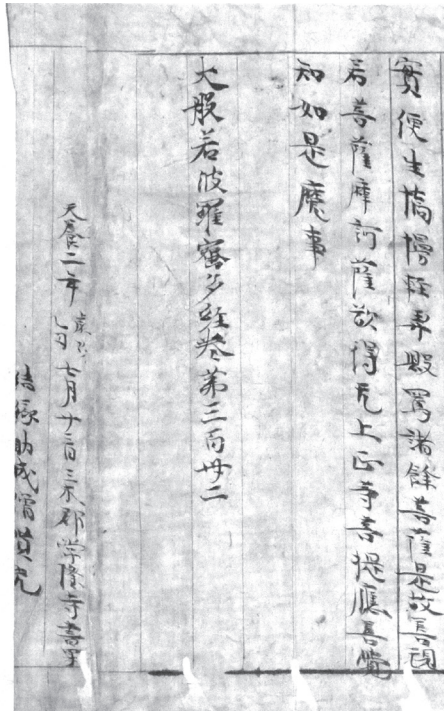
卷第 474



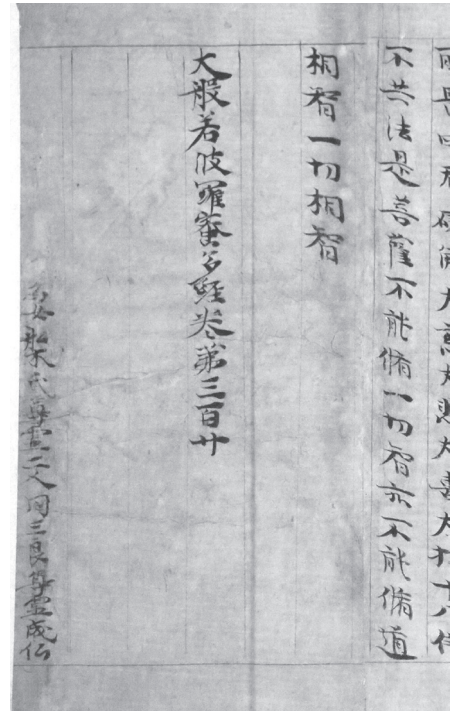
卷第 310



卷第 517



卷第 332



卷第 320

沙等无量世界一切有情開我名者女得无  
 上正等菩提欲以是事應覺般若波羅蜜多  
 舍利子諸菩薩摩訶薩得此等无量无边殊勝  
 功德應覺般若波羅蜜多  
 大般若波羅蜜多經卷第四百十九

天養二年歲次三月十日  
 勸進聖人高男子住僧道深結緣共備車馬  
 為智慧利利報新到觀世安隱後世亦喜得

卷第 479

何以一切善成就有情令其斷脫惡趣生无  
 如應證得三摩理般威益自他究竟五學一  
 一廣說如前不施  
 大般若波羅蜜多經卷第四百七十五

天養二年歲次三月十日  
 勸進聖人高男子住僧道深助成眾女高攝  
 為現亡安隱後世善得助成其業師值光

卷第 475

大般若波羅蜜多經卷第五百十三  
 二文了  
 和泉州大身郡和野下奈  
 教并寺住僧嚴也  
 天壽二年正月一日  
 祇聖人初逢以寫般若德外也諸定化世七世同

卷第 583

寺故舍利子諸菩薩摩訶薩備行般若波羅  
 蜜多與如是法相應故當言共般若波羅蜜  
 多相應  
 大般若波羅蜜多經卷第四百八十

天養二年歲次三月十日  
 勸進聖人高男子住僧  
 聖潔法河助成眾女不致重支支度氏  
 教多而止現亡安隱後世善處  
 法政精誠誠助成其業師值光

卷第 480

表1 凡例

奥書は書込みなどがあればその年号、年号のない中世の奥書には○、奥書以外は□、近世はすべて△と略称する。なお、奥書などで常陸寺経と判断できるものには巻次に網掛けを、同じく中山寺経では奥書に網掛けをしている。

時代構成は、各料紙の書写時代を記す。Hは平安時代後期 Hkは平安時代末期～鎌倉時代前期 Kは鎌倉時代中～末期 Kmは南北朝時代 Mは室町時代 Eは江戸時代を表す。時代の判断は私見であり目安である。なお、①は第1紙、②は巻末からの第1紙、③～⑤は第2紙から第5紙までを表している。

紙幅群①～③は、H HKの紙幅の違いにより、任意の規格に分けたものがある。紙幅は糊代 誤差などを考慮して2センチの範囲の差を同一規格とみなす。①、②などの各紙幅群の両端は裁断されている場合があるため原則として対象外とする。単位はすべてセンチメートルである。

紙幅(ほか)は、現状が本来の紙幅でない料紙、どの紙幅群にも属さない変則的な数値の料紙を示す。なお復元して明らかに①～③に属するときは紙幅群に入れてはならない。

各紙幅では、現状の数値を記載する。界高は( ) 料紙の質、書写時期の変化の箇所を / で必要に応じて示している。

校訂は、記載のままの文字で表記し、朱書きは(朱)とする。※は特記事項に記入したことを表す。なお巻末の裁断で失われたものも少なくない。

修理銘は、江戸時代の修理銘がある場合に、村名 町名等で記載している。

状態、特記事項等が必要に応じて記載した。なお同筆、異筆等の記載は必要と思われる箇所でも明瞭に判断できるものを記載した。記載がないから異筆、または同筆という訳ではない。

共通

界線は墨界であり、高さ19.1～20.8センチ、幅1.6～2.0センチ程度と揺れが大きく、一巻の中でも一紙のなかでも一様ではなく、天地の横界線を斜めに引く、また引かれていない場合もある。

首題、尾題は巻第24、第25(両巻とも江戸写本)を除き存在するが、首題、外題の存在の記載は省略した。

料紙の縦は天保年間の改装により当初の寸法は不明である。現状は23.4～24.1センチで、ほとんどが23.9センチである。5帖(10帖/巻)を納める木箱は幅54.7、高さ22.8、奥行28.4センチである。

巻次	奥書	時代構成	紙幅群①	紙幅群②	紙幅群③	紙幅(ほか)	各紙幅	校訂	状態	修理銘	特記事項等
1		①-③E ④-②H	40.0-41.4④-⑥⑧- ②⑦			⑦37.5	①25.0②40.0③15.6④41.4⑤40.8⑥40.0⑦37.5⑧⑨⑩40.0⑪40.7⑫40.9 ⑬40.7⑭40.9⑮41.0⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	虫損 裏表紙糊離れ	寺谷	序文(E)あり「大般若經初會序 西明寺沙門玄則製 …」とは異なる序文「大般若三藏聖教序」及び「大唐大慈恩寺三藏法師傳卷第七の一部を引用 ⑤-⑦は一筆か	
2		①-②3H	40.0-40.8②-⑥⑨- ④⑦			⑦11.8⑧21.0	①38.5②40.3③40.0④40.5⑤40.3⑦11.8⑧21.0⑨40.8⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	虫損 カド痕 ツミ	寺谷	⑧と⑨、⑩と⑪の各継目に文字がのらないよう小さく書写する	
3		①-②2H	40.5-41.0②-①⑨			37.3-38.5②⑦	①32.5②40.8③41.0④40.5⑤40.9⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	虫損 カド痕	寺谷	改装時、上端の文字一部切断 ⑧-⑩の紙背にマウラの判あり	
4		①-②2H		40.2-41.0			①38.8②40.6③④⑤40.8⑥41.0⑦40.2⑧40.9⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	虫損 カド痕	小神	改装時、文字行の中央を切つて継目とする ⑧⑨他の紙背にマウラの判あり	
5		①-②2H	40.3-40.5				①39.5②40.3③④⑤40.5⑥40.3⑦⑧⑨40.5⑩1.6	虫損	寺谷	改装時、文字行の中央を切つて継目とする	
6		①-②3H	40.5				①37.7②-④40.5③21.1	虫損 糊離れ	寺谷	継目に文字がのる	
7		①-②2H	40.8				①38.0②-④40.8③23.0	虫損			
8		①-②2H	40.7-41.5				①40.1②41.3③34.1④41.0④40.7⑤41.2⑥⑦⑧41.2⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	虫損 汚れ	寺谷	改装時、文字行の左端裁断し 文字の左の一部切れる	
9		①-②3H	41.1-41.3				①34.7②24.1③34.1④41.2⑤⑥⑦⑧41.2⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	虫損 汚れ			
10		①-②2H	40.6-41.0				①39.5②40.6③34.7⑤⑥40.5⑦41.0⑧22.0				
11		①-②E ③-②1H	47.0-48.0④-①②				①30.8②22.6③④33.4④47.8⑤48.0⑥⑦47.8⑧47.3⑨47.3⑩47.1⑪⑫47.0⑬ ⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	虫損 汚れ	寺谷	③以降、一筆(強い文字) ⑫⑬に朱点あり	
12		①-②0H	45.3-45.9②-①⑦				①43.5②③45.3④⑤45.7⑥45.8⑦⑧45.9⑨45.8⑩⑪45.5⑫45.9⑬45.3⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	カド痕 汚れ	寺谷		
13		①-①9H	53.5-55.0②-④⑥- ⑧⑨⑩⑪⑫⑬				①50.2②③54.5④53.5⑤⑥⑦54.4⑧54.5⑨⑩54.8⑪55.0⑫18.1⑬54.0⑭ ⑮54.7⑯54.3⑰53.5⑱52.5⑲⑳53.0⑳54.5⑳14.3	一交丁	寺谷	①-④と⑥-⑮は同筆 ①-④と⑥-⑮は⑤、⑮以降と異筆 ただし⑮の途中で筆跡が変わり、①-⑤に似る ⑤の前後、 ⑩の前後、⑮の前後で筆跡なし	
14		①-①⑦①⑧H	53.5-54.0②-④				①49.2②54.0③53.6④53.5⑤⑥47.0⑦55.5⑧⑨55.7⑩47.0⑪47.0⑫46.7⑬46.5⑭⑮ ⑯46.0⑰46.0⑱44.8⑳55.8⑳31.1	虫損	寺谷	判紙規格の変わる前後は同筆だが、判紙の途中をきめ何 度か手がかわる、⑮と⑰は異筆	
15		①-②0H	48.6-50.1②-①①⑨				①46.5②42.2③④49.4⑤54.9⑥⑦49.5⑧⑨49.5⑩⑪50.1⑫46.2⑬46.3⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	一交丁	寺谷		
16		①-①9H	49.0-49.8				①45.5②49.8③④⑤49.4⑥42.0	カド痕 虫損	寺谷		
17		①-②①①H ②-①③M	55.5-55.7③-⑥				①7.6②45.1③④⑤55.7⑥51.0⑦50.7⑧50.8⑨⑩40.3⑪29.7⑫42.9 ⑬42.8⑭⑮42.8⑯42.9⑰41.2	虫損	寺谷	①は②以降とほぼ同時期だが、異筆	
18		①-②2H	46.1-49.1②④-⑥⑪ ⑧				①44.6②46.1③38.9④49.1⑤49.0⑥46.1⑦50.5⑧50.5⑨50.6⑩⑪55.6⑫⑬ ⑭47.3⑮⑯56.5⑰56.2⑱14.7⑲22.2	一交丁	寺谷	⑥と⑦は同筆、⑦の文字右端が⑥にかかると、⑧-⑩一筆	
19		①-⑤⑥⑦-②0H	47.2-47.5②-④				①44.0②47.5③④47.5⑤42.5⑥⑦⑧⑨49.5⑩49.5⑪⑫49.5⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	一交丁	寺谷	⑥は⑤⑦と異筆	



巻次	奥書	時代構成	紙幅詳①	紙幅詳②	紙幅詳③	紙幅(ほか)	各紙幅	校訂	状態	修理銘	特記事項等
51		①-③④-⑦H	490-496④-⑦	501②		③446	①453②501③446④74⑤493⑥492⑦495⑧495⑨495⑩495⑪495⑫495⑬495⑭495⑮495⑯495⑰495⑱495⑲495⑳495㉑495㉒495㉓495㉔495㉕495㉖495㉗495㉘495㉙495㉚495㉛495㉜495㉝495㉞495㉟495㊱495㊲495㊳495㊴495㊵495㊶495㊷495㊸495㊹495㊺495㊻495㊼495㊽495㊾495㊿495		表紙糊離れ	栃木	③と④で料紙の色異なるが、同筆で錯簡なし 木箱(巻算51-第100)のつまみ欠失
52		①-⑬⑭-⑲H	532-543②-⑬	493⑭-⑲		⑤403	①490②532③537④540⑤493⑥550⑦533⑧575⑨40⑩-⑪543⑫540⑬541⑭540⑮542⑯-⑰493		表紙・①-③糊離れ 虫損	栃木	
53		①-⑱H	513-518				①477②515③④513⑤-⑥518⑦515⑧520⑨518⑩516⑪-⑫518⑬308	一交了		栃木	
54		①-⑤⑥-⑲H	475-492②-⑤⑨	450-465⑥-⑨⑩-⑬⑭-⑰		⑬432	①42②475③49④⑤490⑥460⑦465⑧455⑨487⑩465⑪455⑫45⑬45⑭45⑮45⑯45⑰45⑱45⑲45⑳45㉑45㉒45㉓45㉔45㉕45㉖45㉗45㉘45㉙45㉚45㉛45㉜45㉝45㉞45㉟45㊱45㊲45㊳45㊴45㊵45㊶45㊷45㊸45㊹45㊺45㊻45㊼45㊽45㊾45㊿45			栃木	①の行間に1行(「及應遠離…摩訶薩」)書き足す、①最後の行重複
55		①-⑲H	453-468③-⑱			②443	①415②443③46④45⑤43⑥42⑦41⑧⑨48⑩46⑪42⑫45⑬45⑭45⑮45⑯45⑰45⑱45			栃木	
56		①-⑲H	446-465				①412②448③46④460⑤460⑥460⑦462⑧462⑨462⑩462⑪462⑫462⑬462⑭462⑮462⑯462⑰462⑱462		虫損	栃木	
57		①-⑲H	490-495②-⑱	455⑬-⑲			①44②493③495④⑤49⑥⑦49⑧⑨49⑩⑪49⑫⑬49⑭⑮49⑯⑰49⑱49	一交了	虫損	栃木	
58		①-⑲H	490-495①-⑱	440-450⑬-⑲		①172②288	①450②③490④49⑤⑥49⑦⑧49⑨⑩49⑪⑫49⑬⑭49⑮⑯49⑰⑱49			栃木	⑦の途中から手が変わる それまでと①以降はと同筆 ⑩-⑱で錯簡なし
59		①-⑲H	453-471				①416②453③46④46⑤46⑥46⑦46⑧46⑨46⑩46⑪46⑫46⑬46⑭46⑮46⑯46⑰46⑱46		表紙など糊離れ	栃木	
60	応永	①-⑬H ⑭-⑱M	543-545②-⑬				①510②③545④543⑤-⑥545⑦543⑧⑨43⑩⑪43⑫⑬52		擦れ	栃木	
61		①-⑱H	531-533②④-⑦	573③		452-454⑧-⑱	①516②531③573④⑤73⑥⑦53⑧⑨43⑩⑪43⑫⑬43⑭⑮43⑯⑰43⑱43	一枚筆		池谷	①で誤字8文字を切り取り、別の経巻の該当部分を貼る(もとの界線あり)、補簡
62		①②M ③-⑱H	435-440⑤-⑱			④392	①270②308③275④392⑤-⑥43⑦⑧⑨⑩43⑪⑫43⑬⑭43⑮⑯43⑰⑱43			池谷	
63	応永	①②④-⑬H ⑭-⑱M	492⑤-⑱			HK③127	①460②130③④127⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		虫損	池谷	②の左端にもとの③の文字右端が残る、③は補写か ④の途中で手が変わる
64		①②③-⑲H	460-472④-⑱			②52③34	①34②52③④2⑤4⑥4⑦4⑧4⑨4⑩4⑪4⑫4⑬4⑭4⑮4⑯4⑰4⑱4	一枚了	虫損	池谷	①と②は同筆で③以降とは異筆、①-④で錯簡なし
65		①④HK⑤ ⑥-⑲H	460-477⑤-⑲	HK37.8-37.9②③		HK④180	①30②③37.8④37.9⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	一枚了	水浸の文字あり	池谷	⑤-⑬一筆か、①-⑤で錯簡なし
66		①②-⑲H	478-493③④-⑲			②129	①30②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	一枚了	虫損 ①の一部欠失	池谷	①と②で界高のずれ大、②-⑱一筆
67		①E ②-⑲H	436-442③-⑲				①25②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿	一枚了		池谷	②-⑲一筆 朱点あり
68		①-⑲H	431-445				①437②439③44④44⑤44⑥44⑦44⑧44⑨44⑩44⑪44⑫44⑬44⑭44⑮44⑯44⑰44⑱44		虫損 カビ痕		
69		①-⑲H	436-440				①405②440③43④6⑤-⑥440⑦454	一枚了	①の一部欠失		
70		①-⑲H	490-495①-⑱	513-515⑤⑥-⑲		⑬186⑮31.7	①460②490③④490⑤⑥490⑦⑧492⑨⑩495⑪⑫495⑬⑭495⑮⑯495⑰⑱495	一交了	虫損 汚れ 一部欠失	池谷	⑬⑭⑮一筆 ⑯の左端に1行書き足す、⑯の文字の右端
71		①-⑲H	466-469①-⑱	413-432⑲-⑳		550⑲	①391②468③468④469⑤⑥468⑦⑧468⑨⑩468⑪⑫468⑬⑭468⑮⑯468⑰⑱468		一部欠失	池谷	⑯の料紙にのる
72		①-⑱H	491-497②-④⑦-⑱	455⑤		⑥380⑦382⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		虫損 カビ痕	池谷		
73		①-⑱H	470-475				①451②475③④47⑤⑥⑦47⑧⑨47⑩⑪47⑫⑬47⑭⑮47⑯⑰47⑱47		虫損 カビ痕	池谷	⑩と⑪で錯簡なし
74		①-⑱H	472-493				①47②48③47④2⑤⑥48⑦⑧48⑨⑩48⑪⑫48⑬⑭48⑮⑯48⑰⑱48		カビ痕	池谷	
75	応永	①-⑱H ⑲-⑳M	524-534①-⑱				①512②533③52④4⑤⑥53⑦⑧47⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿			池谷	
76		①E ②HK ③-⑱H	460-465③-⑱			HK②301	①170②301③④⑤46⑥⑦46⑧⑨46⑩⑪46⑫⑬46⑭⑮46⑯⑰46⑱46		カビ痕	池谷	②は③以降と異筆、錯簡なし、②は補写か ③-⑱一筆
77		①-⑱H	446-450				①395②446③④450⑤448⑥⑦448⑧⑨450⑩⑪450⑫⑬450⑭⑮450⑯⑰450⑱450			池谷	
78		①②③-⑬⑭⑮H	510-514④-⑱			①125	①378②220③④12⑤51⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿		虫損	池谷	①と②は同筆、③-⑬⑭⑮は同筆、①②③は異筆、①-④、⑤-⑯で錯簡なし ⑰は⑬⑭⑮と異筆で界高のずれ、錯簡なし ⑱は補写か
79		①-⑱H	485-500				①44②49③50④⑤49⑥48⑦48⑧⑨48⑩⑪48⑫⑬48⑭⑮48⑯⑰48⑱48		①汚れ 虫損		

東洋中央博物館研究報告 集67号

巻次	奥書	時代構成	紙幅群①	紙幅群②	紙幅群③	紙幅(注カ)	各紙幅	校訂	状態	修理経	特記事項等
80		①-20H	45.3				①43.0②-③45.3④28.1		虫損	池谷	
81		①2K ③-7M ⑧-18H	54.2-54.5⑨-⑩				①33.1②37.2③43.4④43.7⑤⑥43.3⑦23.5⑧⑨4.7⑩54.3⑪54.2⑫54.4⑬-⑭54.5⑮52.2			長谷	①と②は同筆、③-⑦一筆、⑧と⑨は異筆、⑩と⑪は異筆、⑫と⑬は異筆、⑭と⑮は異筆、⑯は異筆、⑰と⑱は異筆、⑲と⑳は異筆、㉑と㉒は異筆、㉓と㉔は異筆、㉕と㉖は異筆、㉗と㉘は異筆、㉙と㉚は異筆、㉛と㉜は異筆、㉝と㉞は異筆、㉟と㊱は異筆、㊲と㊳は異筆、㊴と㊵は異筆、㊶と㊷は異筆、㊸と㊹は異筆、㊺と㊻は異筆、㊼と㊽は異筆、㊾と㊿は異筆、
82		①-16H	49.1-50.4②-⑤⑦-⑮				①47.3②49.1③-④49.6⑤44.6⑥47.4⑦53.5⑧50.0⑨⑩49.6⑪-⑫50.2⑬50.4⑭50.3⑮30.0			長谷	⑥の文字が⑤⑦との継目になる
83		①-16H	49.6-50.0				①47.8②49.9③49.6④-⑤50.0⑥42.4			長谷	
84		①②-17H	48.5-49.2③-⑮				①46.2②17.2③48.7④⑤49.0⑥48.8⑦⑧49.0⑨49.2⑩48.8⑪⑫49.1⑬48.5⑭48.9⑮49.0⑯48.8⑰15.7			長谷	①と②③は異筆、錯簡なし、④は補写カ
85		①-17H	48.8-50.6				①48.5②③50.3④50.6⑤48.8⑥⑦49.0⑧49.3⑨-⑩49.0⑪6.7			長谷	④と⑤の継目に文字のる
86		①E ②-19H	48.7-50.3③-⑮				①15.7②③44.3④50.0⑤49.3⑥⑦50.0⑧50.3⑨⑩⑪50.0⑫⑬⑭⑮9.3			長谷	
87		①-16H	49.7-50.0				①47.7②③49.7④49.9⑤-⑥50.0⑦59.3			長谷	
88		①-15H	49.6-49.8				①48.0②③49.6④⑤49.7⑥-⑦49.8⑧48.1			長谷	
89		①-18H	49.1-49.4②-⑮				①47.0②49.4③49.2④49.4⑤49.1⑥-⑦49.1⑧25.7⑨22.0⑩27.1			長谷	
90		①②-18H	50.4③-⑥				①25.8②③25.5④50.0⑤⑥-⑦50.4⑧48.8⑨-⑩48.5⑪48.5⑫48.6⑬48.7⑭16.6			長谷	①と②は異筆、③は補写カ
91	弘化	①-1E					②42.0				
92		①KM ②-18H	44.7-45.5③-⑮				①47.2②40.5③45.0④44.7⑤45.2⑥45.0⑦45.2⑧⑨45.2⑩⑪45.5⑫44.8⑬45.4⑭⑮45.2⑯15.7			長谷	墨界なしの箇所あり 錯簡なし
93		①-17H	44.2-45.7③-⑮				①44.5②43.0③44.2④45.5⑤44.7⑥-⑦45.7⑧45.2⑨⑩⑪47.7⑫44.8⑬⑭45.1⑮44.8⑯19.5			長谷	墨界なしの箇所あり 貼紙あり
94		①-3KM ④-17H	44.7-45.3⑤-⑮⑯				①7.8②43.5③34.7④38.0⑤44.8⑥45.3⑦⑧⑨45.2⑩⑪44.7⑫44.8⑬45.1⑭45.1⑮44.8⑯19.5			長谷	墨界なしの箇所あり ③と④の継目の紙背にマーカーあり
95		①-20H	37.5-39.5①-⑮				①39.0②41.4③39.8④⑤40.6⑥40.1⑦39.8⑧⑨40.9⑩40.7⑪40.3⑫39.2⑬⑭37.5⑮39.8⑯⑰39.2⑱39.5⑲⑳17.5			長谷	継目でない⑬の紙背にマーカーあり
96	応永	①-7HK ⑧-27M ⑥	HK38.5-39.3②④-⑥				①33.8②39.0③④16.5⑤49.5⑥38.5⑦37.4⑧⑨-⑩44.2⑪41.0⑫44.5⑬41.0			長谷	
97		①K ②-19H	40.0-40.2③-⑮				①45.4②③44.3④⑤40.0⑥⑦-⑧40.2⑨⑩18.8			長谷	②以降で墨界なしの箇所あり
98		①②-19H	46.4-46.6③-⑮				①29.9②③12.0④46.4⑤⑥⑦46.6⑧7.0			長谷	①と②③は異筆、脱字、錯簡なし、④は補写カ 補写のあとに水濡
99		①-18H	48.5-49.2②-⑮				①45.1②49.0③④⑤49.2⑥⑦48.7⑧⑨⑩48.9⑪⑫48.5⑬⑭48.9⑮47.0⑯12.9			長谷	
100		①-15⑦-⑮H ⑧K	50.1-50.7③-⑮				①46.1②20.3③④⑤50.1⑥⑦⑧50.7⑨⑩⑪50.2⑫⑬50.7⑭⑮43.9⑯⑰13.7⑱⑲6.8⑳⑳43.5			長谷	⑮補写カ、錯簡なし
101		①KM ②-③①K ⑨⑩⑪⑫-20H	47.2-47.7⑭-⑰				①13.0②③22.8④40.8⑤48.4⑥38.8⑦40.3⑧⑨40.6⑩⑪40.2⑫⑬40.0⑭⑮⑯13.0⑰⑱29.5⑲⑳19.0⑳①47.6⑳②47.5⑳③47.4⑳④47.4⑳⑤47.2⑳⑥38.5			長谷	⑨-⑩と⑪-⑫は同筆、⑬の界高は⑭、⑮と⑯、⑰と⑱で「眼」が重複、⑳と㉑は同筆で補写カ 木箱(巻第101-第150)左側板、奥板の釘欠失、蓋の上下縫われる
102		①-4K ⑤-20H	47.2-47.5⑥-⑮				①11.0②40.5③④10.3⑤⑥32.5⑦⑧45.3⑨47.5⑩⑪47.5⑫⑬47.2⑭⑮47.5⑯⑰27.8			長谷	④と⑤で錯簡なし
103	弘化	①-1E					②42.5				
104		①E ②-3K ④-20H	47.5-47.8⑤-⑮				①14.0②③42.8④⑤9.4⑥⑦⑧47.5⑨⑩47.8⑪⑫⑬47.8⑭⑮47.5⑯⑰18.7			長谷	③と④で錯簡なし ④(1行)と⑤は同筆 ※校訂の口は削除痕
105		①-2K ③-19H	47.3-47.8④-⑮				①21.6②31.1③38.6④⑤⑥47.8⑦⑧⑨47.3⑩⑪47.6⑫⑬47.8⑭⑮47.6⑯⑰18.0			長谷	②と③で錯簡なし ⑤と⑥の継目で「空」が重複
106		①K ②H ③-14⑮-⑲HK	HK38.9-41.0③-⑲				①22.0②③18.0④⑤38.5⑥40.0⑦41.0⑧40.0⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲30.6			長谷	①-③で錯簡なし ④と⑤で錯簡なし 改修時の料紙の長さの調整のためか、文字行や行間を詰めて短く隙間をつつて伸ばす箇所あり
107		①-15HK ⑥-19H	48.5-48.7⑮⑰				①36.0②③④⑤⑥39.5⑦⑧38.8⑨39.2⑩⑪⑫39.4⑬⑭38.5⑮⑯38.5⑰⑱37.5⑲⑳48.5⑳①48.7⑳②19.2③			長谷	①-⑤一筆、⑥-⑮一筆、⑯と⑰で錯簡なし
108		①-3H ④-12HK ⑬-17⑳H ⑲-21M	38.5②				①7.0②38.5③21.4④⑤12.8⑥41.5⑦41.2⑧⑨38.6⑩⑪20.5⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲10.0⑳㉑34.6⑳㉒47.3⑳㉓①48.9⑳㉔48.6⑳㉕14.6⑳㉖42.0⑳㉗11.3⑳㉘48.8			長谷	①-③一筆、④-⑮一筆、⑯と⑰の継目で各行重複し 界線が「ズ」れる、補簡





東洋中央書局蔵書目録 集619

Table with columns: 巻次 (Volume), 奥書 (Title), 時代構成 (Period), 紙幅詳① (Paper Size 1), 紙幅詳② (Paper Size 2), 紙幅詳③ (Paper Size 3), 紙幅(注カ) (Paper Size Note), 各紙幅 (Paper Sizes), 校訂 (Revision), 状態 (Condition), 修理銘 (Repair Mark), 特記事項等 (Special Notes).



巻次	奥書	時代構成	紙幅群①	紙幅群②	紙幅群③	紙幅(注カ)	各 紙 幅	校訂	状態	修理銘	特 記 事 項 等
201	文和	①-⑤KM ⑥-⑳H	40-4-41.4⑥-⑳				①33.0②34.6③34.8④35.6⑤29.5⑥⑦41.1⑧⑨41.4⑩⑪40.8⑫40.6⑬40.4⑭⑮41.0⑯41.2⑰41.4⑱41.0⑲25.8		虫損		①-⑤墨界なし 巻第201-第2100Hは同筆カ
202		①-②E ③-⑳H	40-5-41.0④-⑱				①20.2②36.0③32.5④40.9⑤41.0⑥40.6⑦⑧⑨40.5⑩⑪40.7⑫⑬40.8⑭⑮40.0⑯40.8⑰40.8⑱40.6⑲20.7⑳		表紙・②と③の紙継で糊離れ		
203		①-⑳H	40-6-41.4④-⑥⑨-⑳				①38.0②37.3③30.3④41.1⑤41.2⑥41.1⑦37.3⑧39.9⑨40.8⑩41.0⑪⑫40.6⑬41.0⑭40.8⑮38.0⑯⑰1.9(1行のみ)⑱40.8⑲41.0⑳40.9⑲41.0⑳39.3⑳12.1				
204	弘化	①-①E					①-③31.2④42.2				
205		①-⑳H ⑳	40-8-41.5②-⑱⑳-⑳				①38.0②41.2③41.0④41.4⑤41.5⑥41.5⑦⑧⑨41.5⑩⑪41.5⑫⑬41.2⑭⑮41.3⑯⑰40.8⑱⑲18.0⑳⑲41.0⑳33.5				②と③の継目、改装時に調整のため少し裁断
206		①-⑳H	40-5-41.9②-⑱⑳				①40.0②41.0③41.4④41.7⑤41.5⑥41.4⑦41.0⑧41.9⑨41.4⑩⑪41.5⑫⑬41.3⑭⑮41.0⑯41.3⑰⑱40.8⑲40.5⑳⑲22.3⑳⑲41.0⑳31.2				
207		①-⑳H	41.0-41.8②-⑳				①38.4②41.5③④41.3⑤41.8⑥41.4⑦41.8⑧⑨41.0⑩⑪41.3⑫⑬41.5⑭⑮41.2⑯⑰41.5⑱⑲41.0⑳⑲27.1⑳⑲15.6				欄外に欠行の書き込み2行あり 欠失の一部、E補写
208		①-⑱H	41.0-41.6				①39.2②41.5③41.4④41.6⑤41.6⑥41.4⑦⑧⑨41.2⑩⑪⑫⑬41.3⑭⑮41.5⑯⑰41.2⑱⑲41.5⑳⑲33.2				欠失の一部、E補写
209		①-⑳H ⑳	41.0-41.8②-⑱⑳-⑱				①38.0②41.0③41.3④41.5⑤41.7⑥41.7⑦41.7⑧41.4⑨41.8⑩⑪41.6⑫⑬41.5⑫⑬41.3⑭⑮⑯15.6⑰⑱41.1⑲⑳41.0⑲⑳4.5⑳34.3		裏表紙糊離れ		欠失の一部、E補写
210	文明	①-⑳H ⑱	40-9-41.2②-⑨⑩-⑱				①38.6②③④⑤40.9⑥38.3⑦41.2⑧⑨40.9⑩⑪14.5⑫⑬32.0⑭28.1		虫損 一部欠失		④の改行余白に「万勝寺」の書込 ⑩と⑪は同筆だが、界高異なる ⑱最終行無断故有「上」を断を新と誤写
211		①-⑳H	40-3-41.4				①38.2②41.2③41.4④41.0⑤40.8⑥40.6⑦⑧⑨40.3⑩⑪40.6⑫⑬41.0⑭⑮40.5⑯⑰41.0⑱⑲41.3⑳⑲12.5		裏表紙糊離れ ⑩-一部欠失		巻第211-第2200Hは同筆カ 巻第201と同筆カ
212		①-⑳H	41.0-41.6②-⑱⑳⑲				①38.0②41.0③41.3④41.3⑤41.5⑥⑦41.0⑧⑨41.5⑩⑪41.0⑫⑬41.2⑭⑮⑯41.1⑰⑱41.5⑲⑳41.0⑲25.7⑳		虫損 ①と②で一部欠失		⑱と⑲で錯簡なし
213		①-⑳H	40-8-41.6				①38.3②41.3③41.5④41.5⑤40.8⑥⑦41.1⑧⑨41.5⑩⑪41.0⑫⑬41.5				
214		①-⑳H	41.0-41.7②-⑱				①37.5②41.3③41.7④41.4⑤⑥⑦41.4⑧⑨41.2⑩⑪41.4⑫⑬41.1⑭⑮41.5⑯⑰41.3⑱⑲41.6⑲⑳36.3				
215		①-⑱H	41.1-41.6				①39.5②41.2③④41.5⑤⑥⑦41.2⑧⑨41.2⑩⑪41.0⑫⑬41.2⑭⑮27.5				
216		①-⑱H	41.0-41.5				①39.3②41.5③41.6④41.7⑤41.5⑥⑦⑧41.3⑨⑩40.5⑪⑫25.1		表紙糊離れ		②と③の継目で文字が隠れる ⑤と⑥の継目で文字切れる
217		①-⑳H	40-5-41.7				①38.6②40.3③41.1④41.3⑤41.4⑥41.2⑦⑧41.0⑨⑩⑪41.2⑫⑬41.5⑭⑮⑯41.0⑰⑱40.8⑲⑳18.5				
218		①-⑳H	40-3-41.5				①32.0②41.0③④41.1⑤41.0⑥40.7⑦⑧41.0⑨⑩39.6⑪⑫⑬41.0⑭⑮40.8⑯⑰⑱40.7⑲⑳40.2⑳25.7				
219		①-⑳H ⑲E	39-6-41.1②-⑳				①30.8②41.2③41.5④41.5⑤41.0⑥41.5⑦⑧41.3⑨⑩40.5⑪⑫40.8⑬⑭⑮40.2⑯⑰⑱39.2⑲⑳16.0				
220		①-⑱H	40-2-41.5②-⑱⑲				①50.0②52.0③49.5④50.0⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳⑳22.5		③と④紙継糊離れ		①-④から手が変わる
221		①-⑱H	52.0②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳⑳				①49.5②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳⑳52.5⑳46.8		一部欠失		①-④(2セツチ)江戸補写
222		①-⑱H ⑲⑳	51.6-52.8②-⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳⑳				①44.1②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳⑳46.8⑲⑳26.7		一部欠失		尾題の書写なし
223		①-⑱H	46-2-47.8				①43.8②47.5③47.3④45.1⑤46.6⑥47.2⑦⑧⑨47.5⑩⑪47.2		一部欠失		
224		①-①E					①50.0②51.8③51.9④51.9⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳⑳47.2		一部欠失		
225		①-⑱H	45.1-47.5				①37.1②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳⑳39.2⑳⑲38.2⑳⑲19.8		虫損 一部欠失 料紙劣化		⑱と⑲は同筆で⑲(3行)とは異筆
226		①-⑱H	51.5-52.0				①41.1②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳⑳42.2		一部欠失		⑤から手が変わる
227		①-⑳H ⑲E	38.0-39.5②-⑥⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳⑳				①49.7②51.4③51.0④51.4⑤51.5⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳⑳38		虫損		途中で2回手が変わる(⑲の途中で手が変わる)
228		①-⑱H	50-8-51.9②-⑱⑲				①39.6②40.5③④40.5④46.2⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳⑳30.8				
229	嘉永	①-①E					①53.5②③45.9④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳⑳12.5				
230		①-⑱HK	HK50-6-51.5				①46.3②46.5③④46.0⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳⑳30.8				
231		①E ②-⑱H	45-9-46.2③-⑱								
232		①-⑲H ⑳⑲	45-8-46.8④-⑱								

巻次	奥書	時代構成	紙幅詳①	紙幅詳②	紙幅詳③	紙幅(ほか)	各紙幅	枚訂	状態	修理銘	特記事項等
233	①-③E		紙幅詳① 46.1-47.0⑤-⑩	紙幅詳②	紙幅詳③	紙幅(ほか)	/④33.7⑤-⑦46.3⑧-⑩46.5⑫47.0⑬-⑭46.5⑮927.2		裏表紙糊離れ		①-⑩一筆、ただし⑤の初めの6行は異筆、錯簡なし ⑨は⑩までと異筆、⑩の1行目の文字の右端の一部は⑩との雑目になる(補字)、錯簡なし
234	①-⑩H ⑨HK		46.1-47.0②-⑯				①42.2②346.5④47.0⑤46.3⑥⑦46.5⑧-⑩46.2⑪⑫46.5⑬-⑭46.3⑮⑯ 46.1⑳10⑵5⑶18.3		虫損 糝紙劣化		
235	①-①E						②42.0		糊離れ		尾題なし
236	①-①H		47.0-47.7				①44.5②47.0③47.2④47.0⑤47.2⑥-⑦47.3⑧47.7⑨⑩-⑪47.3⑫47.0⑬27.0 /⑭323.5⑮-⑯46.8⑰-⑱46.7⑲⑫47.0⑬46.6⑭46.8⑮47.0⑯⑰46.5⑱39.4 ⑲5.8⑳43.0㉑2⑳45.5㉒16.0		虫損		
237	①-②E ③-②H		45.8-47.0④-⑱	①②①			①42.5②43.5③48.8④46.5⑤46.6⑥⑦46.4⑧46.5⑨⑩46.0⑪-⑬46.5⑭-⑯ 46.0⑰45.8⑱12.5				
238	①-⑩H		48.8③	④43.5			①47./②38.0③④46.9⑤⑥47.2⑦⑧47.5⑨47.7⑩⑪-⑬47.5⑭47.3⑮47.5⑯ 47.2⑰15.2		裏表紙糊離れ		
239	②E ①③-⑩H		46.9-47.7③-⑩				①38.7②40.4③49.2④2.5⑤51.5⑥50.8⑦53.3⑧-⑩53.5⑪-⑬54.0⑭54.2⑮ 40.8		糊離れ		③と④で糊離れ、錯簡なし(③と④で「清」重複)
240	①E ②-⑥⑦-⑩H		50.8-51.5⑤⑥	⑤3.3-54.2⑦-⑱			①40.2②43.1③43.3④42.4⑤-⑱43.0⑳24.8				
241	明德 ①-②⑩M						①15.6②③43.0④29.7⑤9.4⑥-⑱46.3⑲-⑳46.6⑳42.5				④と⑤で錯簡なし
242	①-④HK ⑤-⑩H		46.3-46.6⑥-⑱	HK4302③							
243	①HK ②-⑦H ⑧-②⑩M		44.4-45.9③-⑨⑰	48.4⑩⑱			①28.0②17.0③④45.8⑤25.6⑥19.6⑦45.9⑧⑨45.8⑩⑪-⑬48.4⑭44.4⑮ 43.3⑯45.2⑰31.7				裏紙に巻第244の題箋を貼って貼る ①と②で錯簡なし ②-⑦は一筆か
244	①HK ②-⑩H		55.6-56.0③-⑱				①3.7②50.0③-⑤55.6⑥-⑧55.6⑨⑩⑪56.0⑫32.8 ⑬42.3		虫損		裏紙に巻第243の題箋を貼って貼る
245	弘化 ①-①E										
246	①-⑥K ⑦-②⑩H		47.5-47.7⑧⑨⑫-⑱⑰				①44.2②21.2③44.0④43.7⑤43.5⑥7.1⑦36.4⑧47.7⑨18.3⑩6.3⑪26.8⑫ 47.6⑬34.6⑭11.6⑮32.2⑯17.2⑰47.1⑱6⑲⑳41.5㉑4.9		巻頭一部欠失		⑥と⑦で錯簡なし ⑨-⑱は一筆 ②と③の糊離れに文字の
247	①-②HK ③-⑩H		47.2-47.5⑤-⑱	④2.9⑬42.6			①6.5②17.0③17.4④2.9⑤47.3⑥⑦-⑩47.2⑰⑱47.3⑲42.6⑳9.9		糊離れ		③と④で糊離れ
248	①E ②-⑦H		47.5-49.0③⑱				①27.7②18.4③48.1④47.6⑤48.4⑥48.5⑦48.4⑧48.0⑨⑩⑪49.0⑫48.2⑬ 48.9⑭48.5⑮47.5⑯48.0⑰25.7		②一部欠失		
249	①-⑩H		46.5-47.2				①44.4②③46.7④46.5⑤46.8⑥-⑧47.0⑨47.2⑩⑪⑫47.0⑬46.7⑭29.0				
250	①-⑩H		37.5-39.5				①35.0②37.5③39.2④39.0⑤⑥39.3⑦39.0⑧⑨39.2⑩39.5⑪-⑬39.2⑭38.8		虫損 糊離れ ②一部欠失 糝紙劣化		独特の字体
251	□ ①-⑦⑩M						①29.3②23.3③④43.2⑤-⑧42.7⑨43.3⑩8⑪41.0⑫0.8⑬41.1⑭43.0⑮0.7 ⑯40.0⑰43.1⑱42.8⑲43.0⑳43.2⑴43.1⑵43.3⑶43.1⑷43.6⑸0.7⑹5.6⑺⑻ 42.5				木箱(巻第251-第300)の蓋の残欠失
252	○ ①-⑦HK		HK48.1-48.6				①46.5②48.1③48.4④48.6⑤-⑱48.5⑲⑳48.2⑴36.7				
253	①-⑩HK		HK48.2-48.4				①46.3②48.4③-⑱48.2⑱8.3				
254	①-⑦HK		HK48.0-48.8				①46.8②③48.0④48.3⑤⑥48.3⑦⑧48.7⑨⑩48.3⑪48.8⑫45.2⑬3.3⑭⑮ 48.3⑯48.0⑰47.6		虫損		
255	①-③K ④-⑦HK		HK46.2-47.8④-⑱				①27.0②42.7③35.6④46.2⑤-⑧47.6⑨47.8⑩46.2⑪47.0⑫47.0⑬40.9				
256	①-⑩HK		HK46.5-47.8				①46.2②46.5③47.8④47.5⑤47.6⑥47.7⑦-⑨47.8⑩47.2⑪47.7⑫47.0⑬46.5⑭ 47.5⑮43.5		シミ		
257	明德 ①-②⑩M						①30.3②42.8③42.7④⑤43.0⑥40.6⑦2.0⑧1.7⑨⑩⑪43.0⑫43.4⑬43.0⑭⑮ ⑯43.2⑰⑱43.0⑲29.0		虫損 巻頭一部欠失		
258	○ ①-⑩H		54.1-54.6②-⑱	51.8-52.3⑱⑰			①50.2②54.2③54.1④54.5⑤54.5⑥⑦⑧54.1⑨51.8⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲42 ①31.3②38.8③④⑤39.0⑥38.7⑦⑧38.3⑨⑩39.2⑪⑫⑬38.8⑭⑮39.0⑯⑰⑱39.1⑲⑳39.2⑳39.0⑴38.6⑵34.3		一交丁		⑯は「一交丁のみ
259	①M ②-⑦H		38.3-39.2②-⑱				①45.9②48.4③48.6④48.5⑤⑥⑦48.5⑧48.2⑨48.5⑩537.7		糊離れ		
260	○ ①-⑩H		48.2-48.6						九仁痕 一部欠失 巻頭シミ		
261	①-⑩H		54.5-55.6				①53.8②③55.6④55.5⑤⑥54.5⑦55.0⑧55.5⑨⑩⑪55.2⑫55.5⑬53.18		巻頭シミ		
262	①-②⑩H		45.9-46.2③⑱				①37.1②8.8③45.9④⑤⑥46.2⑦44.1				①と②は異筆、昇高異なり、錯簡なし
263	①-⑩H		55.4-55.6				①51.6②55.4③④45.5⑤6.5⑥5.4⑦⑧⑨55.5⑩31.6				
264	①-⑩H		55.1-55.2				①51.6②③55.1④⑤⑥55.2⑦⑧17.5				



巻次	奥書	時代構成	紙幅詳①	紙幅詳②	紙幅詳③	紙幅(ほか)	各紙幅	枚訂	状態	修理銘	特記事項等
296		①-⑩H	48-4-48-9				①45.1②348.8③448.5④⑤⑥⑦⑧⑨⑩48.2⑪48.4⑫⑬⑭49.9⑮⑯48.6⑰10.6				
297		①HK ②-⑩H	51-0-53.2③-⑩			HK①21.6	①21.6/②25.0③④51.0⑤52.8⑥⑦33.2⑧⑨52.9⑩⑪52.5⑫30.8				①と②で錯簡なし
298		①-⑩HK ⑧-⑩⑪-⑩	HK46.2-47.0②-⑥ ⑧-⑩⑪-⑩	HK42.5⑦	HK38.6-39.5 ⑫⑬		①45.0②46.6③46.7④46.3⑤46.9⑥47.0⑦42.6⑧⑨⑩46.9⑪⑫39.5⑬⑭46.9⑮46.7⑯46.2⑰45.0				①の最終行の文字左端が②で隠れる。錯簡なし
299		①-③④-⑩H	54.5-54.8②③	49.0-50.9④-⑩			①51.1②54.5③54.8④50.9⑤50.3⑥⑦50.5⑧49.9⑨50.9⑩50.6⑪⑫50.5⑬⑭50.2⑮17.5				③と④で錯簡なし
300		①-⑩H	37.3-39.2②-⑩	39.6-40.3⑦-⑩			①32.2②37.8③37.3④37.8⑤38.0⑥38.0⑦37.8⑧39.3⑨38.3⑩38.5⑪⑫37.8⑬⑭38.2⑮⑯38.1⑰⑱38.2⑲⑳38.1㉑㉒38.1㉓㉔38.2㉕㉖38.2㉗㉘38.2㉙㉚38.2㉛㉜38.2㉝㉞38.2㉟㊱38.2㊲38.2㊳38.2㊴38.2㊵38.2㊶38.2㊷38.2㊸38.2㊹38.2㊺38.2㊻38.2㊼38.2㊽38.2㊾38.2㊿38.2				①と②は縦目で一行程の余白あり、同筆、錯簡なし ③と④(1行)は異筆、「弁」が③と④で重複、補簡 ④と⑤は同筆で「法」の文字が④と⑤で重複 ⑥と⑦は異筆、⑧と⑩は同筆、墨界なしの箇所あり
301		①-②HK ③-⑩H	44.8-45.7④-⑩				①37.1②13.5③34.4④45.2⑤44.8⑥45.9⑦⑧⑨5.0⑩45.7⑪⑫45.6⑬⑭5.5				①と②は同筆、②と③の縦線で「四」が重複、補簡 木箱巻第301-第350 蓋の上の様次失
302		①-⑩H	48.5-49.0				①46.1②48.7③48.5④48.9⑤⑥48.7-49.0⑦⑧1.9				
303		①-⑩H	54.0-55.6				①51.3②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩55.6⑪55.0⑫54.0⑬⑭55.2⑮⑯55.4⑰51.3		①と②で糊離		
304		①-⑩E					②41.8				
305		①-⑩H	48.3-49.5				①44.5②48.3③48.8④49.0⑤49.0⑥⑦48.5⑧48.9⑨⑩49.2⑪28.2				
306		①-③④-⑩H	49.4-50.8⑤-⑩	38.2②			①25.9②38.2③37.0④27.5⑤⑥49.4⑦39.8				
307		①-④E ⑤-⑩⑪-⑩H	37.3-38.8⑥-⑩	44.0-45.7⑪-⑫			①②40.0③38.0④38.7⑤⑥38.7⑦⑧⑨⑩37.3⑪⑫38.1⑬⑭41.0⑮44.0⑯⑰45.2⑱45.7⑲⑳45.5㉑㉒45.3㉓㉔45.3㉕㉖32.6				
308		①-⑩H	37.3②	47.7-49.0④-⑩			①35.0②37.3③21.1④48.7⑤⑥⑦49.0⑧47.7⑨⑩48.0⑪44.5				
309		①-⑩⑪-⑩HK	HK38.1-38.7②-⑩	HK49.1-49.5⑪-⑩			①35.7②38.1③38.2④⑤⑥38.4⑦⑧38.7⑨⑩⑪38.5⑫38.2⑬⑭40.1⑮⑯49.4⑰49.1⑱49.5⑲⑳11.0				①まで②③以降は異筆、④と⑤で錯簡なし、⑥以前と巻第308は同筆カ
310		①-⑤⑥-⑩H	52.7-53.4②-④	48.0-48.8⑥-⑩			①49.2⑤2.7③53.2④53.4⑤51.9⑥48.8⑦⑧48.0⑨48.4⑩⑪48.3⑫48.1⑬⑭⑮48.0⑯⑰48.4⑱⑲22.0				⑤と⑥で錯簡なし
311		①-⑩E					②41.5				
312		①-③④-⑩H	55.3②	48.9-49.4④-⑩		⑧47.4	①50.5②55.3③44.0④⑤49.0⑥49.6⑦49.0⑧49.4⑨⑩49.0⑪47.4⑲7.1				③に朱点あり ③と④では界線のずれ、錯簡なし
313		①-⑩HK	HK47.2-47.5				①48.7②47.2③47.5④⑤⑥47.5⑦⑧3.7				
314		①-⑩E					②41.9				
315		①-⑩E					①33.0②③33.4④⑤⑥⑦42.0⑧⑨20.0				
316		①-②③④-⑩E					①33.6②41.9③41.9④41.6⑤41.8⑥41.8⑦41.3⑧41.7⑨⑩29.7⑰19.9				⑧⑨は古色の料紙 ⑩と⑪の縦目に文字の ⑧の界高は前後と異なる。底本の柱題あり
317		①-⑩E					①33.0②42.1③41.5④⑤⑥22.3				底本の柱題あり 表紙の題箋に「陽巻」
318		①-⑩E					②④41.3③41.7				底本の柱題あり
319		①-⑩⑪-⑩E					②41.8 ①41.3③40.4④34.4⑤⑥1.4				①-⑩は古色の料紙
320		①-④⑤-⑩H	55.5②-③	47.4-49.0④⑩	45.3-47.2⑤-⑨⑩-⑩		①51.5②③55.5④49.0⑤47.2⑥48.9⑦47.1⑧⑨47.0⑩47.4⑪⑫⑬47.1⑭46.5⑮47.1⑯46.9⑰46.8⑱⑲46.8⑳45.3㉑㉒11.3				
321		①-⑩H	47.0-47.3				①42.0②47.0③47.3④47.1⑤⑥⑦47.1⑧⑨⑩47.3⑪8.2				
322		①-⑩H	44.6-45.5				①41.7②44.6③45.5④⑤⑥⑦45.0⑧⑨⑩45.0⑪⑫45.0⑬⑭45.0⑮⑯45.2⑰21.0				汚れ
323		①-⑩HK ⑬-⑩⑪	43.7-45.7⑫-⑯	HK37.6-38.2②⑤-⑩	HK③21.6④30.5		①11.3②38.0③21.6④30.5⑤38.2⑥37.6⑦38.0⑧38.3⑨39.0⑩39.1⑪39.2⑫35.6⑬⑭40.0⑮44.5⑯⑰45.6⑱⑲45.7⑳44.4⑲44.4⑳44.3㉑㉒27.3				表紙糊離れ
324		①-⑤HK ⑥-⑩H	52.3-52.5⑦-⑩	HK37.3④	HK②28.9③29.0		①26.5②28.9③29.0④37.3⑤28.4⑥50.8⑦52.5⑧52.3⑨52.5⑩⑪52.3⑲43.2				①-⑤と⑥以降とは異筆、⑤と⑥で錯簡なし
325		①-⑩H	47.2-47.5②-⑩	42.0-43.2⑩⑪-⑩	⑩40.5		①45.2②47.3③47.4④47.2⑤47.3⑥47.2⑦47.5⑧⑨⑩47.5⑪⑫47.5⑬⑭42.8⑮⑯⑰43.0⑱⑲43.0⑳43.0㉑㉒10.3				①以前と③以降は同筆、②と③で錯簡なし
326		①-⑩H	44.0-44.5				①40.4②44.0③④44.5⑤⑥⑦44.3⑧40.5				③と④は同筆
327		①-⑩H	47.3②-⑩	51.0-51.7⑪-⑩			①43.7②47.3③④47.3⑤⑥47.3⑦⑧51.3⑨⑩⑪51.5⑰51.0⑱4.2				①②③の縦目糊離れ
328		①-⑩H	44.9-45.2②-⑩	47.7⑧-⑩			①43.0②③④⑤44.9⑥⑦47.7⑧⑨⑩45.2⑰19.2				
329		①-⑩H	43.8-44.4				①40.8②44.4③44.0④44.4⑤44.2⑥44.3⑦⑧44.2⑨44.2⑩44.3⑰28.6				
330		①-⑩H	44.0-45.4				①40.3②44.0③④44.2⑤⑥⑦44.0⑧⑨45.2⑰⑱45.4⑲⑳5.6				
331		①-⑩H	49.9-50.2②-④	44.5-44.8⑤-⑩			①44.6②49.9③50.2④50.1⑤44.5⑥⑦44.6⑧⑨⑩6.5				⑧に斜めの切断痕あり

巻次	奥書	時代構成	紙幅群①	紙幅群②	紙幅群③	紙幅(注か)	各紙幅	校訂	状態	修理経	特記事項等
332	天養	①-⑬H	55-6-55②-⑤	45-8-46.7⑥-⑱			①54.0②56.0③56.2④55.6⑤55.5⑥45.8⑦46.2⑧⑨46.0⑩46.7⑪-⑬46.5⑭46.2⑮45.8⑯46.3⑰⑱45.8⑲2.8				⑤と⑥の紙継ぎ文字の、⑮と⑯も同様。天高・地高は⑤以前と⑥以降で異なる(昇高は同じ) ⑱は奥書のみ、当初より複数規格で一筆か
333		①-⑬H	55.3-55.7				①53.3②③④⑤⑥55.7⑦⑧38.2				
334		①-⑬H	55.5-55.7				①52.8②55.5③-⑤55.7⑥47.5				表紙糊離れ
335	応永	①-⑲M					①28.1②43.2③42.7④43.3⑤43.2⑥40.7				
336	応永	①-⑲M	40.8-41.5②-⑲				①37.5②41.1③41.2④⑤41.5⑥-⑧41.0⑨40.8⑩37.2⑪31.8⑫19.5⑬24.5				⑩と⑬で錯簡なし
337		①-⑲H	48.5②	52.6③	44.3-44.8④-⑱		①47.5②48.5③52.6④44.5④4.3⑥-⑧44.8⑨19.8				
338	弘化	①-⑲E					①33.3②③42.2 ④42.2⑤26.1				
339		①-⑲H	55.3-55.7				①52.0②55.5③-⑤55.3-55.7⑥42.4				
340		①-⑲K ③-⑲H	39.6-41.6				①33.0②42.6③36.6④41.1⑤41.4⑥-⑧41.6⑨39.6⑩26.4				②と③、⑩と⑬で錯簡なし
341		①-⑲⑳㉑㉒H	46.7-47.8⑦-⑲				①2.1②4.7③3.8④5.1⑤7.3⑥1.5⑦4.7⑧3.8⑨1.8⑩46.2⑪47.1⑫47.5⑬47.2⑭47.5⑮1.6⑯45.3⑰47.3⑱1.2⑲45.5⑳2.4㉑2.1⑳45.0㉒2.5⑳47.4㉓47.2㉔47.4㉕故世尊無10.6㉖故世尊若1.8㉗亦不3.8㉘云何10.1				①-⑦寸断されているが一筆、錯簡なし ⑧と⑨は同筆、⑩と⑪は同筆、⑫と⑬は異筆、⑭-⑲で錯簡なし、⑳と㉑との継目に㉒の親断された文字痕があり
342		①-⑲H	47.2⑲-⑳⑲㉑	49.5-50.2②-⑲			①41.5②49.5③50.0④17.7⑤34.3⑥-⑧50.2⑨-⑫47.2⑬47.2⑭47.2⑮1.7⑯47.2⑰17.2⑱				
343		①-⑲H	46.6-48.0				①44.7②46.6③19.1-19.9④46.6⑤20.0⑥47.2⑦48.1⑧5⑨6⑩47.8⑪19.9⑫47.2⑬⑭48.0⑮47.0⑯48.0⑰47.5⑱47.2⑲47.2⑳48.5				①と②は同筆だが昇高異なる、②の昇高2度変化
344		①-⑲H	47.3-47.7②-⑲				①45.4②47.7③47.5④1.3⑤45.3⑥⑦47.4⑧-⑩47.7⑪11.5				④が短いのは改装時に幅調整のために行間詰めのためか、紙片(反転文字)の付着あり、赤字あり
345		①E ②-⑲H	37.5-39.5③-⑬⑯-⑲⑳				①44.2②31.6③38.8④39.9⑤39.4⑥-⑧39.5⑨38.0⑩38.6⑪37.5⑫33.6⑬38.8⑭37.7⑮38.8⑯30.4⑰37.5⑱38.3⑲19.5				③と④の継目の行間詰まる
346		①-⑲H	46.2-47.9③-⑯	45.0②			①42.5②45.0③46.2④47.1⑤47.7⑥47.2⑦-⑩47.7⑪-⑬47.9⑭46.2				①と②は異筆、錯簡なし
347		①-⑲H	46.0-46.7				①44.0②46.2③46.0④-⑥46.3⑦⑧-⑩46.4⑪46.7⑫-⑭46.2⑮32.3				①と⑤で錯簡なし、判紙の規格は同じだが現状の紙色異なる、赤字で次行、文字の行間書入あり
348		①-⑲H	46.2-47.0①-⑲				①41.5②2.4③22.3④22.8⑤47.7⑥47.7⑦19.9⑧16.4⑨22.0⑩13.5⑪31.8⑫46.2⑬46.5⑭34.6⑮7.9⑯46.2⑰47.0⑱46.3⑲219.8				①は大字、①と②での錯簡なし
349		①HK ②-⑲H	46.4-46.7③-⑲				①42.4②③3.8④46.6④46.4⑤46.6⑥-⑧46.5⑨⑩-⑲46.7⑰6.6				③と④は同筆だが現状の紙色異なる
350		①-⑲H	42.8②	46.3-47.7④-⑱			①33.9②42.8③20.0④46.6⑤47.7⑥46.3⑦46.8⑧-⑩47.0⑪-⑬46.6⑭47.3⑮33.3				
351		①-⑲H	46.6-48.0				①44.9②47.8③48.0④47.3⑤47.8⑥-⑧48.0⑨47.0⑩46.8⑪46.6⑫47.1				
352		①-⑲H	48.1-50.1②-⑯⑰-⑲				①47.8②50.0③④45.0⑤1.5⑥50.2⑦47.6⑧⑨50.0⑩49.2⑪48.1⑫38.2				虫損
353		①-⑲H	49.4-50.0	49.4⑬-⑲			①46.8②③④50.0⑤⑥49.6⑦49.4⑧49.4⑨⑩19.0				虫損
354		①-⑲H	②-⑲51.8-51.5	49.4⑬-⑲	46.6-47.5⑮-⑲		①43.5②50.1③④50.3⑤1.0⑥1.4⑦⑧48.1⑨⑩50.2⑪49.3⑫49.5⑬49.3⑭48.5⑮⑯48.5⑰⑱47.5⑲46.8⑳40.9				⑤-⑦は一筆
355		①-⑲H	50.1-50.3②-⑤⑧⑨	48.3-49.5⑩-⑱			①45.6②49.2③49.0④49.3⑤-⑧49.5⑨47.5⑩⑪47.7⑫⑬48.0⑭47.4⑮47.8⑯4.4⑰4.3⑱12.3				虫損
356		①-⑲H	49.0-49.5②-⑨	47.4-48.0⑩-⑱			①47.0②48.4③④⑤⑥49.2⑦49.5⑧⑨⑩49.4⑪⑫47.2⑬⑭47.5⑮47.2⑯49.0⑰49.5⑱50.0⑲④49.5⑳50.0⑳④49.4⑲④49.7⑳40.7				虫損
357		①-⑲H	48.4-49.6②-⑯	47.2-47.7⑰-⑱			①47.0②48.4③④⑤⑥49.2⑦49.5⑧⑨⑩49.4⑪⑫47.2⑬⑭47.5⑮47.2⑯49.0⑰49.5⑱50.0⑲④49.5⑳50.0⑳④49.4⑲④49.7⑳40.7				虫損
358		①-⑲H	49.0-50.1②-⑬	48.3-48.6⑭-⑲			①47.0②48.3③49.5④⑤⑥49.5⑦49.5⑧49.5⑨49.7⑩⑪50.1⑫⑬49.5⑭⑮48.6⑯⑰48.3⑱12.3				表紙糊離れ
359		①-⑲HK	HK47.8-49.5				①47.0②48.3③49.5④⑤⑥49.5⑦49.5⑧49.5⑨49.7⑩⑪50.1⑫⑬49.5⑭⑮48.6⑯⑰48.3⑱12.3				表紙糊離れ
360		①-⑲HK	HK47.2-48.9				①46.3②48.6③48.0④⑤⑥48.7⑦48.0⑧48.9⑨48.9⑩48.9⑪48.8⑫48.8⑬48.0⑭47.2⑮47.4⑯48.0⑰48.0⑱48.0				表紙糊離れ
361		①-⑲H	54.0-54.7				①51.0②54.0③54.4④⑤⑥54.7⑦⑧⑨54.8⑩⑪54.8⑫⑬54.5⑭54.2⑮40.1				
362		①-⑲H	54.5-55.0				①51.0②54.7③54.5④⑤⑥54.8⑦⑧54.8⑨⑩54.8⑪54.8⑫54.8⑬54.8⑭54.8⑮54.8⑯54.8⑰54.8⑱54.8				
363		①-⑲H	54.0-54.8				①51.1②54.6③④54.8⑤⑥⑦54.6⑧⑨⑩54.4⑪54.0⑫54.2⑬54.0⑭54.5⑮46.5				



巻次	奥書	時代構成	紙幅詳①	紙幅詳②	紙幅詳③	紙幅(注カ)	各紙幅	校訂	状態	修理銘	特記事項等
364		①-⑮H	54.3-54.5				①50.9②-④54.4⑤-⑮54.3⑯50.9				
365		①-⑮H	54.0-54.5				①51.7②54.0③54.2④54.2⑤54.5⑦54.2⑧-⑩54.5⑪-⑬54.0⑭53.1		虫損		
366		①-⑮H	54.0-54.3				①48.9②354.2④54.3⑤54.0⑥-⑮54.2⑯14.0				
367		①-⑮H	54.0-54.4				①50.8②54.0③54.3④54.4⑤54.2⑦-⑨54.4⑩-⑬54.3⑭54.2⑮54.0⑯19.9				
368		①-⑮H	54.0-54.8				①50.5②54.0③54.3④54.0⑤54.3⑥54.5⑦54.2⑧54.5⑨54.1⑩54.8⑪54.5⑫-⑭54.3⑮54.1⑯14.1				
369		①-⑮H	56.2-56.9				①52.0②56.2③④56.6⑤56.5⑥-⑩56.9⑪56.7⑫-⑮56.6⑯38.5				
370		①-⑮H	56.3-56.8				①53.0②56.5③④56.8⑤-⑧56.3⑨⑩56.7⑪-⑮56.3⑯32.1				巻第361-370はセウ
371		①-⑮H	43.6-44.3				①41.0②43.8③-⑤43.8④-⑦43.4⑧⑨44.3⑩44.1⑪43.9⑫⑬44.2⑭⑮33.2				
372		①-⑮H	43.4-44.0				①42.0②44.0③43.9④43.7⑤-⑧43.7⑨43.9⑩43.6⑪43.4⑫⑬43.7⑭⑮43.2		一交了		
373	天保	①-⑮E					①33.2②③42.4 ④⑤41.4⑥27.0				
374		①-⑮H	43.5-45.2				①44.0②③45.2④-⑦44.9⑧-⑩43.5⑪42.5				
375	天保	①-⑮E					①33.6②41.8③④40.5 ⑤41.3⑥41.0⑦18.2				
376		①-⑮H	44.4-44.7				①42.1②-④44.4⑤44.7⑥-⑧44.5⑨-⑪44.7⑫42.5		一交了		
377		①-⑮H	44.0-44.8				①33.5②44.5③44.8④44.5⑤44.7⑥44.4⑦-⑩44.3⑪44.5⑫⑬44.2⑭44.0⑮44.3⑯44.5⑰44.2⑱26.7		汚れ		
378		①-⑮H	44.5-45.5				①43.5②45.1③45.5④45.1⑤45.2⑥-⑧45.1⑨⑩44.5⑪⑫⑬45.1⑭37.9		巻頭一部欠失 汚れ		
379		①-⑮H	45.6-46.2				①42.5②45.6③45.8④46.2⑤-⑦46.0⑧5.7		一交了 汚れ		
380		①-⑮H	44.8-45.0②-⑦				①43.0②③44.8④44.8⑤-⑦45.0⑧43.2		一交了		
381		①-⑮H	54.6-55.3②-④				①51.0②54.6③55.0④54.6⑤-⑧55.0⑨54.7⑩55.0⑪54.8⑫55.1⑬55.0⑭52.5⑮19.3		汚れ		⑮と⑯は同筆、継目で界高ずれ
382		①-⑮H	53.0-53.5②-④				①43.5②53.5③48.5④3.6⑤29.5⑥22.5⑦⑧53.5⑨7.0⑩13.8⑪30.0⑫53.4⑬39.5⑭12.9⑮53.3⑯53.0⑰53.5⑱26.4⑲26.2⑳53.1㉑53.3㉒51.5㉓29.0		表紙糊離れ		
383		①-⑮H	51.1-51.7②-⑨⑩-⑮				①49.3②51.2③51.1④51.3⑤-⑧51.4⑨51.1⑩46.5⑪51.7⑫⑬51.0⑭19.6		裏表紙糊離れ		
384		①-⑮H	47.1-47.5				①43.9②47.2③47.5④47.1⑤-⑦47.3⑧7.6				
385		①-⑮H	45.6-45.8				①43.5②45.6③45.7④⑤45.8⑥-⑧45.0⑨35.6		表紙糊離れ		
386		①-⑮H	54.0-54.7				①51.2②54.0③-⑤54.5⑥⑦54.7⑧-⑩54.2⑪⑫⑬54.6⑭49.7				⑭の巻末に擦り消しの痕跡あり
387		①-⑮H	48.5-49.2				①45.0②48.2③48.8④48.6⑤48.9⑥48.5⑦49.2⑧48.8⑨48.9⑩49.0⑪48.8⑫49.0⑬48.8⑭48.8⑮-⑰49.0⑱46.1				
388		①③-⑮⑥-⑮H ②⑮HK	44.6-46.4④-⑮⑩⑮- ②⑮			⑮21	①44.0②3.6 ③42.3④-⑥44.8⑦45.3⑧44.6⑨45.0⑩44.8⑪46.3⑫46.4⑬46.2⑭45.9⑮21.1⑯44.7⑰46.2⑱45.8⑲46.0⑳46.3⑳44.7				②前後で錯簡なし
389	応永	①-⑮M					①44.2②42.3③④42.6⑤42.3⑥42.6⑦-⑨42.5⑩-⑬42.6⑭42.5⑮42.2⑯44.2⑰44.2⑱42.6⑲42.1⑳42.5㉑20.3㉒20.0㉓6.6				
390		①-⑮H	52.1-54.2②-⑮			⑮47.8	①50.0②52.1③53.3④53.7⑤53.9⑥-⑧53.8⑨⑩54.2⑪52.6⑫54.0⑬⑭54.2⑮53.6⑯47.8⑰22.2		汚れ		
391		①-⑮H	51.0-51.8②-⑮			⑮40.0	①46.6②51.8③④51.6⑤51.0⑦51.3⑧⑨50.8⑩⑪51.1⑫49.0⑬50.1⑭50.4⑮50.2⑯50.2⑰49.5⑱49.5⑲50.8				
392		①-⑮HK	HK49.5-50.2②-⑦ ⑩-⑮				①45.9②-④50.2⑤49.5⑥50.1⑦49.8⑧48.5⑨49.0⑩49.6⑪⑬50.0⑭49.8⑮49.5⑯49.7⑰35.8		汚れ 書き込み		行間を詰めることあり
393		①-⑮HK	HK51.0-51.6②-⑮				①47.0②51.0③51.6④51.0⑤-⑧51.2⑨⑩47.7⑪45.0⑫47.2⑬⑭26.0				⑭まで⑮以降は同筆、錯簡なし
394		①-⑮HK	HK49.2-50.2				①46.0②49.2③49.5④⑤49.3⑥49.9⑦49.6⑧-⑩50.2⑪49.9⑫50.5				⑮と⑯は同筆、錯簡なし
395		①-⑮HK	HK53.5-54.0②-⑮				①50.8②53.6③53.7④53.5⑤54.0⑥53.5⑦53.8⑧-⑩53.6⑪53.8⑫53.2⑬1				⑯と⑰で錯簡なし
396		①-⑮H ②HK	49.2-51.2②-⑩			②43.6	①44.5②51.2③50.3④-⑥49.7⑦⑧49.2⑨⑩50.2⑪45.6⑫⑬45.3⑭45.5⑮⑯45.6⑰43.6⑱23.5				
397		①-⑮HK	HK50.0-51.5			⑮48.3	①45.8②50.0③50.8④50.1⑤51.0⑥51.2⑦-⑩51.2⑪51.5⑫⑬51.2⑭48.3⑮13.0				
398		①-⑮HK	HK53.0-54.1				①49.7②52.2③53.0④54.1⑤53.6⑥-⑧54.0⑨46.6				
399		①-⑮HK	HK47.5-48.0②-⑨				①43.5②47.6③47.8④47.5⑤-⑦47.8⑧48.0⑨47.5⑩⑪53.5⑫53.5⑬53.6⑭53.1⑮5.7		シミ		巻末に「口巻第三百口(反転 天地逆)あり

戦国中世書体研究 集巻10

巻次	奥書	時代構成	紙幅群①	紙幅群②	紙幅群③	紙幅(注カ)	各 紙 幅	校訂	状態	修理銘	特 記 事 項 等
400	①-⑭HK	HK44.5-47.2①-⑭			①47.2		①42.8②-⑤44.8⑥-⑬44.8⑭44.5⑯47.2⑰42.3				
401	①-④K ⑤-⑳H	45.4-46.7⑦-⑨①- ⑳	43.8⑩				①1.0②42.0③④41.6⑤7.4⑥19.3⑦-⑨45.⑩43.8⑪46.7⑫-⑭45.4⑬ 18.2				④と⑤で錯簡なし 木箱(巻第401-第450)蓋のつまみ欠失
402	①-⑳H	38.5-39.0②③⑤-⑩	44.5-45.0⑪-⑱		④23.3⑱40.4		①36.7②38.7③39.9④23.3⑤38.5⑥-⑩39.0⑪44.5⑫⑬44.5⑭-⑯45.0⑰ 40.4⑱20.9				⑧以前と⑨以降は異筆
403	①-⑬⑭-⑳H	37.5-39.5②-⑬	43.2-44.6⑭-⑳				①37.5②39.2③43.9④39.5⑤⑥39.5⑦39.0⑧⑨39.5⑩50⑪51⑫-⑬39.1⑭⑮18.1⑯ -⑰44.6⑱①43.2②43.2				⑮以前と⑯以降は異筆 途中判筆あり ⑯以降はやや後力 墨界なしの箇所あり
404	①-④HK ⑤-⑳H	46.8-47.5⑥-⑰	HK39.0-39.3⑱④		HK⑨17.8		①15.6②39.0③17.8④39.3⑤23.6⑥-⑧47.4⑨46.8⑩⑪47.5⑫-⑬47.3⑭- ⑮47.2⑯23.1				④以前と⑤以降は異筆
405	①-⑱H	46.4-47.5	41.5⑰				①44.2②46.7③46.4④①46.7⑤②45.3⑥①47.5⑦41.5⑧④47.3⑨41.5 ④5.8⑫42.8⑬42.8⑭-⑮42.9⑯23.6				カビ痕 汚れ
406	①-⑳HK	HK44.4-45.5②-⑮	HK43.2-43.5⑯-⑲				①43.5②45.1③45.5④-⑥45.3⑦44.4⑧43.2⑨①-⑲24.5⑳215.9				
407	①-⑳HK	HK44.0-45.4②-⑲					①22.0②19.8③44.3④①-⑲45.3⑥-⑲45.4⑧①-⑲44.2⑩①1.2				文字の書き足し多し
408	①-⑱H	43.3-45.6					①40.6②44.0③43.8④⑤44.2⑥⑦43.7⑧44.0⑨43.8⑩①44.2②43.3③45.6 ④45.2⑤44.8⑥44.5⑦①45.6⑧45.4⑨8.2				糊離れ
409	①-⑱H	45.8-47.0					①43.0②46.6③46.8④46.2⑤45.8⑥-⑧46.5⑨-①47.0②46.6③①-④47.0④ 9.6				
410	①-⑱H	52.3-53.2					①51.0②53.0③53.2④⑤33.0⑤-⑬43.2⑭52.3⑮49.1				シミ
411	①-⑱H	45.3-47.3					①43.6②46.7③47.1④47.3⑤-⑬47.2⑭45.3⑮11.8				継目でない④の紙背にマーカーの花押あり
412	①-⑱H	46.5-47.9					①43.8②47.7③47.9④①47.5⑤-⑬47.8⑭47.1⑯46.5⑰6.4				継目でない紙背にマーカーあり
413	①-⑱H	45.1-46.6②-④	47.0-47.6⑤-⑩				①42.8②45.1③46.6④46.2⑤47.0⑥47.6⑦①47.3⑧12.1				継目でない紙背にマーカーあり
414	①-⑱H	47.5-48.5					①51.1②55.2③56.2④①-⑲56.4⑧⑤40.9⑤3.8⑩①53.9⑪①54.3⑬ 53.2⑭52.2⑮13.2				継目でない紙背にマーカーあり
415	①-⑱H	55.2-56.4②-⑦	53.2-54.3⑧-⑬				②41.7				⑮と⑯で錯簡なし、⑮の行間に1行補写
416	①-⑱H	51.3-52.7②-⑤⑩	53.3-55.5⑥-⑩⑱		①47.3		①49.0②52.2③52.3④52.7⑤51.6⑥54.0⑦⑧53.3⑨55.3⑩55.1⑪47.3⑫ 51.3⑬⑭55.5⑮54.4⑯55.4⑰50.0				カビ痕
417	①-⑱H	52.4-53.2	52.8-54.8				①49.3②52.6③53.0④53.2⑤-⑲52.7⑧52.4⑨52.8⑩①53.0⑪44.0 ①52.5②53.5③54.8④54.6⑤⑥54.3⑦52.8⑧53.7⑨54.0⑩①-⑲53.8⑬⑭53.5 ⑮53.3⑯50.0				虫損
418	①-⑱H	HK54.5-56.2②-⑮	HK50.7-51.3⑰①-⑱				①48.6②55.2③55.0④55.2⑤54.5⑥55.5⑦55.4⑧55.5⑨56.2⑩55.2⑪55.5 ⑫54.8⑬55.7⑭54.8⑮55.0⑯54.5⑰⑱19.5⑲①3.3⑲15.8				⑮と⑯糊離れ
419	①-⑱H	HK54.1-55.5②-⑩	HK50.7-51.3⑰①-⑱				①51.0②55.0③54.6④54.1⑤-⑲55.0⑧①⑤51.0②51.3③④50.8⑤① 50.7⑥③8.7				継目でない①①の紙背にマーカーの判あり
420	①-⑱H	HK54.5-55.4					①49.6②55.4③54.7④⑤55.0⑥①54.5⑦54.3 7				継目でない⑤の紙背にマーカーの判あり
421	①-⑱HK ⑲H	HK54.5-56.2②-⑮					①49.1②52.6③52.8④53.0⑤53.7⑥53.0⑦⑧53.3⑨①①52.5②53.0③52.9④ 53.5⑤47.1				巻頭一部欠失と汚れ ①と②糊離れ 虫損
422	①-⑱HK	HK50.7-51.5					①46.4②50.7③①-⑤51.0⑥⑦51.0⑧①①51.5③50.8④⑤45.6				継目でない紙背にマーカーの判あり
423	①-⑱HK	HK52.8-53.1					①50.5②54.8③54.9④54.5⑤⑥54.6⑦54.3⑧54.5⑨54.0⑩54.9⑪54.2⑫ 54.4⑬⑭54.0⑮54.4⑯50.0				巻末に巻第426の一節(尾題より)行目「是非…待以を墨書 する、本文に錯簡なし
424	①-⑱HK	HK52.8-53.1					①48.5②52.8③53.0④53.1⑤-⑲53.0⑧④2.5				継目でない⑩の紙背にマーカーの判あり
425	①-⑱HK	HK52.8-53.1					①48.5②52.8③53.0④53.1⑤-⑲53.0⑧④2.5				継目でない紙背にマーカーの判あり
426	①-⑱HK	HK54.0-54.9					①45.3②③53.5④2.6⑤5.5⑥54.0⑦54.4⑧54.8⑨2.0①①①①①53.8①① 54.2②53.6③53.2④53.4⑤53.6⑥53.0⑦①①①①①				①と②で錯簡なし ③前後は同筆 継目でない紙背にマーカーの判あり
427	①-⑱HK	HK52.2-52.3②⑤⑥	HK53.8-54.8③①④				①48.2②52.0③④2.6⑤5.2⑥①-⑲52.6⑧①①①52.5⑨51.0⑩③5.9 ①48.2②52.5③④54.4⑤4.6⑥①-⑲54.3⑩③5.8①①①4.8②54.4③ 52.3④52.2⑤①27.2				⑨と⑩の果高など異なるが同筆、錯簡なし ⑬と⑭の継目に余白の行があるが錯簡なし、同筆 継目でな い紙背にマーカーの判あり
428	①-⑱HK ②-⑲HK	HK53.0-54.5②-⑦					①46.0②47.0③47.2④①-⑲47.1①49.2②25.2				⑬と⑭は異筆だが錯簡なし
429	①-⑱HK	HK51.0-52.8					①44.1②①-④47.2⑤①-⑲47.0⑥5.5				⑬と⑭は異筆だが錯簡なし
430	①-⑱HK	HK52.2-52.3②⑤⑥	HK53.8-54.8③①④				①40.3②42.2③①-⑥42.5⑦42.2⑧42.6⑨42.5⑩42.8①①-⑲42.5⑳38.0				
431	①-⑱HK	47.1②-⑤	45.1-45.8⑥-⑱								
432	①-⑱HK	47.0-47.2②-⑬	49.2⑰								
433	①-⑱H	47.0-47.2									
434	①-⑳H	42.2-42.8									

巻次	奥書	時代構成	紙幅群①	紙幅群②	紙幅群③	紙幅(ほか)	各 紙 幅	枚訂	状態	修理銘	特 記 事 項 等
435		①-②0H	438-446				①420②438③441④443⑤442⑥444⑦441⑧443⑨441⑩-⑪442⑫ 131		虫損		
436		①-⑪8H	445②-⑤	472-475⑥-⑧			①435②-⑤456⑥⑦4715⑧4729-⑩475⑪4720⑫475⑬411		虫損		⑤と⑥は同筆
437		①-②0H	455②-⑤	432-441⑥-⑧			①433②-⑤455⑥435⑦443⑧441⑨-⑪440⑫435⑬⑭435⑯⑰432⑱ 441⑳292		虫損 カド痕 巻頭一部欠失		⑤と⑥は同筆 ⑤と⑥は同筆
438		①-②0H	450-455②-⑤	428-438⑥-⑧			①415②453③454④452⑤454⑥-⑧428⑨430⑩-⑪438⑫⑬-⑭432⑮⑯62 ①421⑳-②455③④457⑤45⑥⑦455⑧⑨455⑩⑪454⑫⑬454⑭⑮ 451⑯⑰195		虫損		⑤と⑥は同筆
439		①-②0H	450-457				①482②-③51④⑤10⑥490⑦⑧2⑨⑩39⑪445⑫45⑬45⑭45⑮45⑯45⑰ 451⑱⑳195		巻頭一部欠失		①と②と③は同筆 錯簡なし
440		①-③0H	490-510②-④	445-451⑤-⑦			①482②-③51④⑤10⑥490⑦⑧2⑨⑩39⑪445⑫45⑬45⑭45⑮45⑯45⑰ 451⑱⑳195		巻頭一部欠失		①と②と③は同筆 錯簡なし
441		①-③0H	491-495②-④	471-478⑤-⑧			①455②491③④495⑤471⑥471⑦478⑧475⑨475⑩⑪478⑫⑬475 ⑭473⑮381		虫損		
442		①-③0H	473-481				①475②483③486④491⑤477⑥474⑦478⑧1⑨480⑩478⑪476⑫473 ⑬473⑭474⑮477⑯477⑰473⑱475⑲222		虫損		
443		①-③0H	490-495				①472②491③493④495⑤495⑥493⑦⑧495⑨494⑩492⑪-⑫490⑬⑭278		巻頭一部欠失		
444		①-②HK ③-③0H	481-491④-⑥			⑧47.0 HK②25.9	①178②25.9③440④481⑤485⑥⑦490⑧491⑨-⑩481⑪47.0⑫288		虫損		②と③で錯簡なし
445		①-⑤H ⑥HK	488-493②-④			HK⑤41.8	①470②-④490⑤⑥489⑦⑧491⑨⑩488⑪492⑫490⑬492⑭493⑮ 41.8⑯21.1		虫損		⑤と⑥で錯簡なし
446		①-③0H	470-475②-④⑦	491-494⑤-⑧			①435②471③④472④475⑤-⑦493⑧⑨-⑩491⑪⑫-⑬494⑭⑮47.0⑯35.6		虫損		④と⑤は同筆
447		①-③0H	476-485②-④				①458②476③479④477⑤354⑥1307⑦485⑧483⑨485⑩⑪-⑫480⑬ 478⑭34.8		虫損		
448		①-③0H	486-491②-④			⑧47.0	①454②487③④490⑤486⑥⑦491⑧-⑨490⑩⑪488⑫⑬-⑭490⑮⑯47.0⑰ 29.0		虫損		
449		①-④0H	490-495				①471②492③490④⑤495⑥⑦491⑧494⑨492⑩495⑪490⑫492⑬⑭- ⑮490⑯493⑰34.0				
450		①-④0H	476②-④	485-499⑦-⑩		①46.7	①440②-④476⑦416⑧74⑨⑩499⑪498⑫485⑬498⑭⑮47⑯⑰52⑱⑲ 490⑳46.7⑳20.0				⑭と⑰は同筆
451		①-④0H	HK527-540				①502②529③④527⑤⑥630⑦527⑧⑨⑩530⑪⑫⑬527⑭⑮540⑯⑰13.8		裏紙・裏表紙糊離れ		
452		①-④0H	HK532				①505②-④532⑤2622.5				
453		①-④0H	HK522-532				①475②-④532⑤490⑥⑦3.6⑧⑨⑩⑪532⑫⑬⑭⑮52⑯⑰16.7				⑭と⑯は同筆 紙背にマターの判(口に大)あり
454		①-④0H	HK542-544②-④	HK422⑤⑥			①536②544③④-⑤542⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯19.5				⑥の途中で手が変わる
455		①-④0H	HK532-548			①41.5	①505②533③④⑤53⑥⑦532⑧⑨⑩41.5⑪⑫48⑬⑭51.0				③と④は同筆だが、紙色、規格異なる。
456		①-④0H	HK44.8-460				①430②460③④44.8⑤⑥⑦45.8⑧⑨45.4		一部欠失 シミ		
457		①-④0H	HK469-473				①458②469③④⑤47.3		一部欠失 シミ		
458		①-④0H	HK540-556②-④			⑧51.9	①520②548③④-⑤550⑥547⑦548⑧556⑨543⑩⑪⑫547⑬⑭540⑮⑯518 ⑰47.8		シミ		⑩と⑪の継目で2字欠落、異筆か ⑩と⑪は同筆、巻第455と同一人か
459		①-④0H	HK45.4				①44.8②-④45.4⑤28.5		一部欠失		⑩と⑪、⑰と⑱の継目に文字の
460		①-④0H	HK469-473②-④	442-453⑤⑥-⑧			①442②469③④⑤47.3⑥⑦442⑧45⑨⑩3⑪⑫⑬⑭⑮⑯31.5				
461		①-④0H	HK521-538②-④	482⑤			①485②-④524⑤482⑥⑦532⑧⑨52.8⑩52.1⑪⑫⑬⑭⑮52.4⑯⑰52.2⑱ 482⑲				
462		①-④0H	HK52.5-52.7				①485②-④525⑤⑥⑦⑧⑨52.7⑩52.7⑪⑫⑬⑭⑮52.5⑯⑰⑱54.9⑲45.9				
463		①-④0H	HK52.8-53.4②⑤⑥	HK47.5-480⑦⑧			①477②52.9③53.1④52.8⑤52.7⑥⑦⑧48⑨⑩48.3⑪⑫48.5⑬⑭46.3⑮⑯ 46.7				
464		①-④0H	52.7-53.1②-④	48.3-486⑤⑥-⑧		⑧46.3	①486②52.2③52.5④52.1⑤52.5⑥⑦-⑧52.9⑨52.7⑩⑪52.5⑫⑬⑭54.5⑮45.9 ⑯54.5⑰54.9⑱51.3⑲⑯12.4				⑧、⑩の紙背にマターの判(口に大)あり
465		①-④0H	HK52.1-52.7②-④	HK54.5-54.9⑤⑥-⑧		HK①51.3	①514②55.3③55.5④52.6⑤52.8⑥52.7⑦52.4⑧⑨52.8⑩52.9⑪⑫⑬⑭⑮ 52.4⑯55.1⑰⑱44.0⑲53.8⑳54.4				③の紙背にマターの判(口に大)あり
466		①-④0H	HK54.4-55.5②③④⑧	HK52.3-53.8④⑤⑧		HK⑥44.0	①505②52.8③52.5④52.7⑤52.5⑥54.9⑦⑧55.1⑨55.6⑩50⑪55.6⑫⑬ ⑭55.7⑮54.8⑯50.5				⑦の紙背にマターの判(口に大)あり
467		①-④0H	HK52.5-52.8②-④	HK54.8-55.7⑥⑧-⑩			①515②53.2③④-⑤530⑥53.2⑦⑧⑨⑩530⑪⑫⑬54.8				⑦の紙背にマターの判(口に大)あり
468		①-④0H	HK530-540								

如意寺所蔵の大般若經 一平安時代後期の混合経の一例として

戦国中世の書物と紙の歴史 集巻10

巻次	奥書	時代構成	紙幅群①	紙幅群②	紙幅群③	紙幅(注か)	各紙幅	校訂	状態	修理銘	特記事項等
469		①-⑩HK	HK53.5-54.4				①50.2②54.0③54.2④75.4⑤54.4⑥③54.0⑦⑤53.5⑧40.2				書き込み多数
470		①-⑩HK	HK54.4-56.0②-⑤⑦-⑩	HK52.0⑥			①51.0②54.4③54.9④55.8⑤56.0⑥52.0⑦①55.5⑧⑤55.8⑨⑤55.6⑩52.5				紙背にマークの判(口)に大)あり
471		①-⑩HK	46.4-47.4				①43.2②④46.4④47.1⑤⑧47.4⑨⑧47.1⑩46.8⑩6.3		虫損		シミ
472		①-⑩HK	59.3-55.6④-⑩				①51.5②53.0③27.0④⑤55.3⑥⑧55.3⑦⑩55.6⑩14.3				
473		①-⑩HK	55.0-55.6				①51.0②53.2③1.8④⑤55.6⑥55.2⑦⑧55.5⑨⑩27.1				
474	天養	①-⑩HK	55.5-56.2				①51.0②55.8③55.5④⑤55.4⑥⑧55.2⑦⑨55.2⑩54.6		①一部欠失		擦れ
475	天養	①-⑩HK	55.1-55.7				①51.4②55.3③55.1④⑤55.5⑥⑧55.5⑦⑨⑩55.7⑩⑤55.4⑩39.6				
476		①-⑩HK	46.9-48.4②④-⑩⑩	44.8-46.7⑨-⑩			①43.4②47.5③20.8④47.0⑤47.1⑥46.9⑦47.1⑧47.8⑨45.0⑩46.7⑩44.8 ②44.9③④42.5④42.5⑤48.2⑥48.2⑦47.2⑧47.2				
477	○	①-⑩HK	HK②③45.2-45.8	HK54.4-56.7⑤-⑦	HK49.0-49.8	HK④47.4	①51.5②45.8③45.2④47.4⑤⑥54.4⑦⑥54.4⑧⑥54.7⑨⑥54.3⑩49.3 T.20.5⑨49.5⑩49.7⑨49.6②49.7③49.5④49.4⑤49.0⑥49.0⑦30.6				①と②、③と④、④と⑤とで異なる。④途中から筆かわり 大文字に⑥と⑦は料紙・界線の仕様は同じか異なる、⑧は「如意寺」と同筆、墨色同じ
478		①-⑩HK	55.6-55.8				①52.0②④55.6⑤⑦55.8⑧28.9				
479	天養	①-⑩HK	53.1-54.2②-⑩⑩			①40.5②9.2	①50.2②③53.8④54.2⑤53.8⑥53.2⑦53.5⑧53.6⑨53.1⑩53.7⑩40.5②9.2 ③53.5④53.6⑤53.8⑥⑦53.8⑧⑨53.8⑩26.1		虫損		⑩-⑩は同筆
480	天養	①-⑩HK	53.0-53.9				①50.0②0.3③行目20.1④53.8⑤53.5⑥⑤53.7⑦⑤3.9⑧53.0⑨⑩53.5⑩ 53.9②53.2③53.1④⑤53.5⑥53.6⑦53.8⑧⑨51.6		虫損		①の首題は「大般若…四」まで書かれた紙片を貼り「八十一」は補写する、紙片に毛の界線、補簡、錯簡なし
481		①-⑩HK	HK54.0-54.5②-⑨			HK⑩49.4①52.3	①50.0②54.2③54.5④⑤54.5⑥⑤54.0⑦⑧11.5		汚れ		③ ⑥ ⑩の紙背にマークの判(口)に大)あり
482		①-⑩HK	HK54.0-55.2③-⑩			HK②49.9	①2.3②49.9③54.0④54.4⑤54.8⑥55.2⑦⑧⑨55.0⑩⑤4.8③50.0③4.1⑩ ①55.0③31.5		汚れ		⑩の紙背にマークの判(口)に大)あり
483		①-⑩HK	HK53.3-54.6				①51.0②53.9③53.3④54.1⑤⑦54.3⑥54.0⑧⑨⑩54.6⑩⑤54.2⑦15.5		汚れ		②の紙背にマークの判(口)に大)あり
484		①-⑩HK	HK51.3-53.0②-⑩	54.3③		HK⑤25.0	①47.0②52.2③52.4④⑤52.7⑥52.0⑦52.5⑧52.0⑨52.8⑩52.4①51.3② 51.5③④54.3④52.8⑤52.5⑥53.0⑦44.2		汚れ		紙背にマークの判(口)に大)あり
485		①-⑩HK	HK52.2-53.3②-⑩	HK53.7-55.1③-⑩			①51.3②52.8③⑤55.1⑥54.3⑦52.1⑧2.0⑨52.⑩1.8③54.5④54.0③54.5 ④53.7⑤54.7⑥52.6⑦53.3⑧52.2⑨36.6		汚れ		紙背にマークの判(口)に大)あり
486		①-⑩HK	HK52.5-54.6				①52.0②53.8③53.0④54.4⑤⑥54.2⑦53.0⑧53.0⑨53.0⑩52.5①53.1② 54.0③53.8④53.0⑤54.6⑥42.8				紙背にマークの判(口)に大)あり
487		①-⑩HK	HK53.5-54.1②-⑤	HK51.0-53.0⑥-⑩			①51.5②③53.6④53.8⑤54.1⑥52.6⑦52.5⑧53.0⑨52.3⑩①52.8②51.0③ 52.4④⑤53.0⑤45.1				⑦の紙背にマークの判(口)に大)あり
488		①-⑩HK	HK52.7-53.5②-⑩			HK⑥49.2	①51.0②⑥53.0⑦53.5⑧⑨53.2⑩⑤3.2③④53.0⑤49.7⑤53.0⑥ 52.8⑩38.5				①の紙背にマークの判(口)に大)あり
489	①E ②-⑩HK	HK52.5-54.3③⑦- ①③④⑥⑩	HK50.5-51.8④-⑥ ②⑤				①29.7②21.7③52.9④51.8⑤51.1⑥51.0⑦52.8⑧52.5⑨①54.3②50.5③ ④54.0⑤51.5⑥54.3⑦54.0⑧15.0		一部欠失		①の紙背にマークの判(口)に大)あり
490		①-⑩HK	53.9-54.3②-⑩④ ⑧	50.0-52.4⑨①③		HK⑩2.4	①51.8②⑦53.9③53.5④50.0⑤3.9⑥50.0⑦2.4⑧50.0④⑤54.3⑦ 52.0				①の紙背にマークの判(口)に大)あり
491		①-⑩HK	HK52.7-54.2②-⑩			HK④49.7	①49.5②52.7③53.0④⑥52.7⑦⑧53.0⑨⑩53.2③④53.0⑤49.7⑤53.0⑥ 54.2⑦19.2		虫損		
492	弘化	①-E					②42.5				
493		①-⑩HK	HK48.6-49.2②-⑩			HK③46.2	①45.8②④48.6⑤⑩48.9⑥①49.2⑦48.8③49.2⑧48.8⑤46.2⑨40.2				
494		①-⑩HK	HK48.0-49.8				①45.5②④49.8⑤⑦49.0⑧48.8⑩②49.0③48.8④48.5⑤48.5⑥ 48.0⑦7.2				
495		①-⑩HK	HK46.5-47.8				①43.0②④46.5⑤⑦46.2⑥⑧46.5⑨46.8⑩①46.8① ②42.5⑨9.8				⑥と⑦の継目で⑥に1行分程度の余白あり、錯簡なし
496		①-⑩HK	HK44.2-46.8②-⑩ ⑩-⑦	HK48.9⑨		HK⑩42.5	①42.5②46.0③46.2④46.4⑤46.2⑥⑧46.5⑦46.8⑩①44.5 ④42.5⑨9.8				⑨と⑩の継目で⑨に1行分程度の余白あり、錯簡なし
497		①-⑩HK	HK46.0-46.7②-⑩				①43.2②46.0③④46.5⑤46.7⑥46.2⑦46.7⑧④46.7⑨④46.8⑩①7.6⑩ 3.4②27.3				
498		①-⑩HK	HK46.0-47.8			HK⑥44.9	①44.2②④47.8⑤46.0⑥44.9⑦40.6				
499		①-⑩HK	HK46.0-47.9				①44.5②④47.9③46.9⑤46.5⑥46.7⑦46.6⑧④46.0⑩①6.2		裏表紙糊離れ		⑦と⑧の継目で1行分程度の余白あり、錯簡なし
500		①-⑩HK	HK47.9-48.2②-⑩			HK⑦45.6	①44.4②47.9③48.2④⑤48.0⑥⑦45.6⑧① ①41.2②42.0③17.1④34.7⑤34.5⑥37.8⑦37.5⑧55.5⑨57.0⑩55.4② 55.6⑩⑤5.4③⑤5.5⑦40.9		裏表紙糊離れ		
501		①-⑩HK	55.4-55.7⑧-⑩								

巻次	奥書	時代構成	紙幅詳①	紙幅詳②	紙幅詳③	紙幅(ほか)	各紙幅	枚訂	状態	修理銘	特記事項等
502		①-①HK	HK53.1-55.0				①50.0②-④53.1⑤54.0⑥⑦54.5⑧54.9⑨54.0⑩-⑬55.0⑭54.5⑮⑯54.6⑰50.7 ⑱43.8⑲2.2⑳53.6㉑55.4㉒55.6㉓55.8㉔55.4㉕55.7㉖55.3㉗-㉘55.5㉙45.4		表紙糊離れ		
503		①-②M ③-⑩H	55.3-55.8④-⑩				①52.8②55.0③-⑤5.6⑥⑦-⑩55.3⑪⑫⑬55.2⑭55.5⑮54.7⑯55.0⑰4.6 ⑱42.1⑲35.0⑳34.2㉑39.5㉒55.8㉓38.4㉔39.5㉕38.2㉖36.5㉗⑮5.3㉘49.5 ㉙49.0㉚48.2㉛49.6㉜48.9㉝48.0㉞49.1㉟48.2㊱47.5㊲47.5		巻頭一部欠失		
504		①-⑦H ⑧-⑨HK ⑩-⑫H	54.7-55.6②-⑩				①52.8②55.0③-⑤5.6⑥⑦-⑩55.3⑪⑫⑬55.2⑭55.5⑮54.7⑯55.0⑰4.6 ⑱42.1⑲35.0⑳34.2㉑39.5㉒55.8㉓38.4㉔39.5㉕38.2㉖36.5㉗⑮5.3㉘49.5 ㉙49.0㉚48.2㉛49.6㉜48.9㉝48.0㉞49.1㉟48.2㊱47.5㊲47.5		虫損		墨界なしの箇所あり
505		①M ②-⑩⑪-⑫H	49.2-46.3⑬-⑲	HK38.2-38.5④-⑥			①10.8②24.6③37.8④39.2⑤38.7⑥39.2⑦39.2⑧39.2⑨39.2⑩39.2⑪23.8⑫ 45.9⑬46.3⑭45.6⑮46.2⑯-⑱46.0⑲45.2⑳46.0㉑45.7㉒40.5		虫損		⑩以前⑪以降は墨筆、錯簡なし、墨界なしの箇所あり 改装時に行間を多く結める
506		①M ②-⑩⑪-⑫H	49.2-46.3⑬-⑲	37.8-39.5④-⑥			①10.8②24.6③37.8④39.2⑤38.7⑥39.2⑦39.2⑧39.2⑨39.2⑩39.2⑪23.8⑫ 45.9⑬46.3⑭45.6⑮46.2⑯-⑱46.0⑲45.2⑳46.0㉑45.7㉒40.5		虫損		墨界なしの箇所あり
507		①M ②-⑩H	54.6-55.5③-⑩				①31.2②21.8③④55.0⑤-⑥55.3⑦54.6⑧-⑩55.5⑪52.8		虫損		墨界なしの箇所あり
508		①-⑩H	47.7-47.8②③	48.8-50.1④-⑩			①46.0②47.7③47.8④49.5⑤49.3⑥⑦49.6⑧50.1⑨⑩49.8⑪⑫49.2⑬-⑭ 49.0⑮48.8⑯39.5⑰4.6				
509		①-⑩H ⑪E	54.8-55.6②-⑩				①52.0②54.8③55.0④55.2⑤-⑦55.4⑧55.2⑨55.5⑩⑪55.5⑫⑬55.2⑭ 55.6⑮-⑯55.6⑰50.4⑱⑲4.0		虫損 ⑯汚れ		ほとどの⑯は巻第122に継がれる 墨界なしの箇所あり ⑯の 前後で錯簡なし
510		①②-⑩H	49.6-50.2②-⑩				①46.0②24.6③50.0④-⑥50.2⑦49.8⑧⑨50.0⑩⑪49.8⑫49.7⑬50.0⑭49.6 ⑮39.5⑯23.5		表紙糊離れ 汚れ		
511		①-⑩HK	HK46.8-47.6				①28.3②46.8③47.2④47.5⑤47.2⑥47.5⑦-⑨47.1⑩47.3⑪⑫47.5⑬47.5⑭ 47.0⑮-⑰47.5⑱2.1				
512		①-⑩E					②4.9				
513		①-⑩HK	HK47.8-48.3				①46.0②48.0③48.2④47.8⑤48.2⑥48.0⑦48.3⑧-⑩48.2⑪-⑬48.0⑭3.5		①②一部欠失 汚れ		①②と③以降とは異筆
514		①-⑩HK	HK47.8-48.2②-⑩				①44.5②-④54.8⑤48.2⑥⑦48.0⑧45.5⑨37.8		汚れ		④の途中で手が変わる ⑩から界線なし
515		①-⑩H ⑪-⑫HK	47.4-48.4②-⑩	HK47.2-48.6⑬-⑲			①45.8②-④47.6⑤48.0⑥48.2⑦-⑩48.0⑪40.2⑫5.7⑬47.9⑭48.6⑮47.2 ⑯48.2⑰38.0				
516		①-⑦H ⑧-⑩HK ⑪-⑫M	47.6-47.9②-⑥	HK46.2-48.1⑧⑫			①42.0②-④47.6⑤⑥47.9⑦36.0⑧48.2⑨28.1⑩⑪6.5⑫⑬48.1⑭ 42.1⑮21.8⑯29.8⑰⑱42.5⑲42.3⑳42.3㉑42.4㉒17.2				⑧-⑩は一筆、錯簡なし ⑦と⑧、⑩と⑪で錯簡なし
517		②HK ①③-⑩KM	HK46.2②				①②46.2③46.4④46.4⑤47.2⑥-⑧47.4⑨47.1⑩47.6⑪⑫47.7⑬⑭47.5 ⑮46.8⑯11.8		巻首一部欠失		①と③以降は同筆で阿妙カ ②(最終行は余白)は③の右端 の1行(文字の一部が見える)を糊代として継がれる ⑩と⑪ は同筆だが界線すれる
518		①-⑩HK	HK47.6-48.2②-⑩	HK45.4⑪⑫			①45.5②47.6③48.2④47.8⑤48.2⑥47.8⑦⑧48.0⑨-⑫48.2⑬-⑯48.0⑰ 34.8⑱⑲45.4⑲2.9		一部欠失		⑮と⑯は同筆だが界線すれる
519		①-⑩H	54.8-56.0				①53.5②-④55.5⑤55.6⑥55.6⑦55.8⑧⑨-⑫55.6⑬55.8⑭54.8⑮56.0⑯⑰- ⑱55.5⑲4.4		汚れ		
520		①-⑩H	55.1-55.5				①50.0②55.1③-⑦55.4⑧⑨-⑫55.3⑬⑭55.0⑮55.5⑯55.2⑰27.3		巻頭一部欠失		
521		①-⑩HK ⑪⑫	HK52.3-53.3③-⑩				①51.8②47.5③④53.3⑤-⑧53.0⑨52.4⑩53.0⑪52.6⑫52.4⑬⑭⑮1.2⑯ 48.3⑰1.7⑱52.3⑲53.3⑳42.5		糊離れ		⑧と⑨、⑫と⑬で糊はなれ
522		①-⑩HK	HK52.5-53.7②④- ⑦				①51.5②53.7③45.0④-⑦53.0⑧52.8⑨52.9⑩53.2⑪52.6⑫52.9⑬ 53.0⑭52.5⑮⑯⑰52.8⑱6.2				①②と③以降は同筆カ、錯簡なし
523		①-⑩HK	HK55.2-55.4④-⑨	HK46.0-46.5⑩-⑫			①10.5②29.6③④15.8⑤55.5⑥55.4⑦-⑩55.2⑪⑫46.1⑬43.3⑭32.9⑮-⑯ 46.3⑰⑱46.5⑲43.0⑳46.0㉑22.6		一部欠失 糊離れ		⑨と⑩は同筆 ②と③は糊離れ
524		①-②HK ③-⑥K ⑦-⑩HK	HK51.5-52.5⑦-⑩				①28.0②39.8③④35.2⑤1.6⑥18.8⑦30.1⑧⑨52.1⑩-⑫51.9⑬⑭51.5⑮- ⑯51.8⑰52.3⑱52.5⑲46.5⑳22.0				
525		①-⑩H	54.6-55.7②-⑦	45.4-46.5⑧-⑯			①51.7②55.3③55.5④55.7⑤54.6⑥75.5⑦⑧45.4⑨46.0⑩45.7⑪46.5⑫ 46.6⑬⑭46.2⑮46.4⑯46.0⑰46.5⑱46.3⑲46.0⑳19.3				
526		①-⑩HK	HK55.2②	HK51.5-53.3④-⑩			①51.3②55.2③41.6④52.4⑤52.4⑥52.4⑦51.5⑧51.8⑨53.3⑩⑪52.0⑫⑬ 52.2⑭52.3⑮⑯⑰52.5⑱39.0				
527		①-⑩HK	HK51.0-52.5				①38.2②51.4③51.0④51.5⑤1.5⑥50.2⑦51.4⑧51.5⑨⑩51.9⑪52.2⑫52.3⑬ 51.6⑭52.1⑮51.9⑯⑰⑱52.5⑲10.8				
528		①-⑩HK	HK51.6-51.8②⑩	HK46.8-47.9③-⑩			①47.5②51.8③④47.2⑤47.5⑥46.8⑦47.9⑧⑨47.3⑩47.0⑪47.7⑫47.5⑬ 45.1⑭31.0⑮⑯47.6⑰47.3⑱51.6				
529		①-⑩HK	HK52.3①	HK46.3-47.5③-⑩	HK②34.3③④⑥ ④⑤⑦		①52.3②34.3③46.6④46.9⑤47.5⑥46.3⑦46.7⑧46.6⑨46.8⑩47.3⑪47.0 ⑫46.6⑬計測困難⑭47.0⑮47.2⑯計測困難⑰47.5⑱38.5				

戦国中世轉寫體研究 集67号

巻次	奥書	時代構成	紙幅群①	紙幅群②	紙幅群③	紙幅(注カ)	各紙幅	校訂	状態	修理銘	特記事項等
530	①E ②-⑩HK		HK54.8-55.0②-④	HK46.1-47.7⑤-⑦ ⑩⑪⑫		④44.8⑨11.0	①43.5/②54.8③④55.0/⑤46.1⑥⑦46.5⑧44.8⑨⑩11.0⑪⑫⑬47.1⑭ 47.5⑮47.3⑯47.7⑰47.3⑱46.8		虫損 巻頭一部欠失		⑧と⑨と⑩は同筆、墨界なしの箇所あり
531	①-⑦H		53.0-53.6				①51.3②53.4③④53.0⑤⑥53.6⑦53.4⑧53.0⑨53.2⑩⑪53.5⑫-⑬ 53.2⑭42.5		虫損 巻頭一部欠失		⑬と⑭は同筆
532	①-⑩H		53.0-53.7②-⑤	45.0-46.6⑥-⑩			①51.1②53.7③④54.5⑤53.6⑥45.0⑦45.5⑧-⑨45.3⑩45.4⑪42.5⑫ 45.0⑬45.3⑭45.3⑮45.0⑯⑰45.1⑱45.3⑲45.2⑳54.0㉑㉒㉓		虫損 巻頭一部欠失		⑬と⑭は同筆
533	①-⑦H		53.8-54.6②-⑩	45.1-46.3⑪-⑫			①44.5②54.1③54.1④54.2⑤54.2⑥54.0⑦-⑧54.6⑨54.5⑩54.2⑪45.5⑫ 45.8⑬45.6⑭45.1⑮45.5⑯45.6		一部欠失		首題の1行は江戸時代の補写で裏打紙に写す ①と⑫は同筆、錯簡なし
534	①-⑩H		44.8-46.8②-⑩	46.7-47.5⑪-⑫			①41.5②45.2③45.0④45.7⑤44.8⑥44.8⑦45.7⑧45.5⑨45.8⑩⑪45.6⑫⑬47.5 ⑭47.3⑮46.7⑯47.3⑰46.7⑱47.3⑲30.7				
535	①-⑩H		50.4-51.3②-⑥	44.0-44.7⑦-⑩			①47.3②③51.3④50.5⑤50.4⑥51.0⑦44.6⑧-⑨44.5⑩⑪44.7⑫44.4⑬44.0 ⑭44.6⑮⑯44.5⑰12.4				⑥と⑦で錯簡なし、同筆
536	①-⑩H ⑬⑭⑮E		44.2-45.7②-⑩				①41.5②45.4③45.2④45.5⑤45.3⑥-⑦45.5⑧⑨45.7⑩-⑪45.5⑫44.7⑬ 44.6⑭44.2⑮⑯39.3⑰22.1		虫損 巻頭擦れ		⑬から紙色が変わる 墨界なしの箇所あり
537	①-⑩H		53.2-54.5				①50.2⑤53.6③④53.9⑤54.2⑥54.4⑦45.4⑧-⑨54.3⑩53.3⑪-⑫54.2⑬ 54.0⑭53.2⑮53.8⑯49.1		シミ		
538	①②E ③-⑦H		45.0-45.3⑧-⑫	49.3⑬			①33.5②15.9③④26.5⑤49.3⑥45.0⑦⑧⑨45.0⑩⑪⑫⑬45.3				墨界なしの箇所あり
539	①-⑩H		46.5-47.4②-⑩	49.0-50.2⑪-⑫			①43.4②47.2③④47.1⑤⑥47.4⑦⑧47.8⑨46.8⑩46.5⑪⑫49.8⑬50.2⑭ 49.8⑮49.0⑯49.0⑰49.2⑱35.0				
540	①-⑩H		47.0-47.8②-⑩	43.6-45.3⑪-⑫			①45.4②47.4③47.8④⑤47.4⑥⑦47.0⑧47.2⑨45.0⑩43.6⑪⑫44.7⑬ 45.0⑭44.8⑮-⑯45.0⑰44.6		一部欠失		③④で墨の濃淡、線の太さの変化で×、*の形をデザインする
541	①-⑩H		48.8-49.3②-⑩	54.5-54.8⑪-⑫	44.0⑬⑭		①46.1②49.1③④49.3⑤⑥49.0⑦48.8⑧⑨47.3⑩⑪54.8⑫54.5⑬⑭44.0 ⑮19.8		一部欠失		⑬のみ異筆
542	①-⑦⑩H		53.5-55.8②-⑦	50.5-50.8⑧-⑫		⑪20.0	①51.7②55.6③55.5④53.8⑤53.5⑥55.8⑦55.5⑧50.8⑨-⑩50.8⑪-⑫50.5 ⑬⑭50.6⑮20.0⑯20.3				
543	①-⑩H		55.0-55.9				①52.0②55.7③-④55.9⑤⑥-⑦55.6⑧⑨⑩55.5⑪⑫54.9				
544	①-⑩H		59.3-55.8②-⑦	46.5-47.0⑧-⑫			①53.1②55.3③55.7④-⑤55.6⑥⑦55.8⑧46.7⑨47.0⑩⑪46.6⑫46.5⑬ 5.4		カビ痕 巻頭一部欠失		墨界なしの箇所あり
545	①E ②-⑦H		55.2-55.7③-⑩				①21.4/②33.0③④55.9⑤55.7⑥55.5⑦55.2⑧⑨⑩55.7⑪⑫55.3⑬⑭9.5				
546	①-⑩H		53.0-53.5②-⑩	46.2-46.7⑪-⑫			①48.2②53.1③53.5④⑤53.0⑥⑦53.5⑧⑨46.6⑩⑪46.4⑫46.7⑬ ⑭46.7⑮39.5		シミ		
547	弘化 ①-⑩E						②42.0				
548	①-⑩HK		HK50.0-51.0				①46.3②50.8③51.0④50.5⑤50.7⑥50.0⑦50.4⑧⑨⑩50.8⑪-⑫50.5⑬8.1		一部欠失		⑥と⑦は異筆
549	①-⑥⑦-⑩HK ⑫⑬⑭		HK47.5-49.5①-⑥	HK53.5⑧⑨		HK⑦20.9	①48.0②49.5③48.0④48.7⑤48.0⑥47.5⑦⑧20.9⑨⑩53.5⑪48.4⑫48.6⑬ 47.8⑭⑮47.5⑯47.8⑰48.0⑱46.7				
550	①-⑩HK		HK46.8-47.3				①43.7②46.8③④47.2⑤⑥47.2⑦⑧47.0⑨⑩⑪47.3⑫⑬47.0⑭⑮3.9		表紙糊離れ		
551	①-⑩HK		HK47.8-48.0				①45.3②47.8③④48.0⑤⑥22.0		表紙糊離れ		
552	①-⑩HK		HK47.8-48.0②-⑨	HK43.3-45.2⑩⑪⑫			①46.1②③47.8④46.0⑤⑥⑦⑧⑨48.0⑩⑪⑫45.2⑬43.3⑭⑮22.7		表紙・裏表紙糊離れ		
553	①-⑦HK		HK45.8-46.2②③	HK47.5-48.5④⑤⑥			①42.8②46.2③45.8④47.8⑤48.0⑥48.2⑦⑧⑨48.0⑩48.5⑪⑫47.5⑬48.2⑭ 48.0⑮47.8⑯⑰48.0⑱46.0		表紙糊離れ		
554	①-E						②42.0				
555	①-⑩H		48.2②-⑩	45.0-46.3⑪-⑫			①45.0②③48.2④46.0⑤⑥46.3⑦45.0⑧⑨44.0⑩⑪44.0⑫⑬6.7		巻頭一部欠失		
556	①-⑩H		44.6-46.2				①41.8②③④45.0⑤⑥⑦46.2⑧45.5⑨29.5		巻頭一部欠失		
557	①-⑩H		45.0				①41.5②③④45.0⑤21.0				一部欠損部分の補写あり
558	①-⑩H		49.0				①46.0②③④49.0⑤44.3				
559	①-⑩HK ⑫⑬		HK45.5-46.8②-⑩			HK⑬44.2	①42.0②③46.0④7.45⑤⑥⑦45.5⑧⑨⑩46.0⑪⑫45.7⑬⑭46.0⑮44.2⑯⑰46.8⑱30.0		虫損		
560	①-⑩HK		HK48.2-48.5②-⑩	HK46.2-46.5⑪-⑫			①45.0②③48.2④48.5⑤48.2⑥48.5⑦46.2⑧⑨⑩46.2⑪⑫46.3⑬30.7		虫損		
561	①-⑩HK		HK49.5-50.4②-⑩	HK47.5-47.8⑪⑫		HK⑬36.5	①45.6②50.2③④50.4⑤49.5⑥47.5⑦36.5⑧47.8⑨⑩19.7		虫損		同じ判紙の中で手がかわる
562	①-⑩HK		HK49.4-51.3				①46.1②③④50.8⑤31.3⑥50.0⑦⑧49.4⑨38.3				

巻次	奥書	時代構成	紙幅詳①	紙幅詳②	紙幅詳③	紙幅(ほか)	各紙幅	枚訂	状態	修理略	特記事項等
563		①-⑩HK	HK51.2-51.8②-⑧	HK49.1-49.8⑨-⑮			①47.1②51.2③51.5④51.2⑤51.6⑥7⑦51.8⑧51.6⑨49.1⑩-⑬49.8⑭49.2⑮49.7⑯42.7				
564		①-⑦HK	HK50.2-51.9②-⑮			HK⑩46.8	①49.8②③51.9④51.7⑤51.3⑥51.3⑦51.6⑧⑨51.8⑩51.6⑪-⑬50.2⑭46.8⑮9.7				
565		①-⑦HK	HK48.8-50.0②-⑭	HK47.6⑮⑯			①48.0②-④49.6⑤49.4⑥49.7⑦-⑨50.0⑩⑪49.5⑫48.8⑬⑭49.2⑮⑯47.6⑰11.7				判紙の綴目で手がかわる
566		①-⑩HK	HK46.5-47.0				①40.8②③46.5④5⑤47.0⑥46.7⑦47.0⑧⑨46.5⑩46.7⑪-⑬46.5⑭47.0⑮-⑰46.5⑱26.2		一部欠失		一部の漢字の字音を記す
567		①-⑦HK	HK49.2-49.5				①46.0②③49.2④49.8⑤-⑦49.5⑧⑨19.3				⑯の途中から行間が狭くなり、墨界がなくなる
568		①-⑩HK	HK48.5-50.2				①46.2②49.9③-⑤50.2⑥49.0⑦1.1⑧47.5⑨3.8⑩49.2⑪⑫48.5⑬49.6⑭7.6				
569		①-⑦⑧⑨H	50.5-51.5③-⑪	49.0-49.5⑫-⑰		②48.0③45.0	①47.4②48.0③51.5④51.2⑤51.0⑥51.0⑦50.8⑧50.5⑨51.5⑩⑪51.0⑫49.1⑬49.2⑭49.5⑮49.4⑯49.0⑰49.2⑱45.0⑲16.3				⑯まで⑰以降は異筆 ⑰まで⑰以降は異筆 錯簡なし ⑱以降行間が狭くなる
570		①-⑦⑧⑨H	49.4-50.0②-⑮	HK48.0⑯		HK⑰42.8	①46.0②48.4③-⑥48.9⑦⑧48.5⑨48.8⑩49.2⑪49.9⑫49.7⑬⑭50.0⑮49.7⑯46.0⑰42.8⑱26.5		一部欠失		①-⑦と⑧-⑬と⑭-⑰とは異筆 ⑱と⑰で錯簡なし
571		①-⑩HK	47.5-48.0				①43.8②-⑤47.5⑥-⑧47.8⑨-⑫47.9⑬48.0⑭47.8⑮47.6⑯26.5		表紙・裏紙糊離れ		垂水村
572		①-⑩H	47.5-48.0				①44.2②-④47.7⑤47.9⑥47.7⑦48.0⑧47.8⑨47.6⑩-⑫47.8⑬-⑰47.5⑱28.5				
573		①-⑩H	46.7-47.5				①43.0②46.7③46.9④-⑥47.0⑦47.2⑧⑨47.2⑩⑪47.0⑫47.2⑬⑭47.0⑮⑯47.3⑰47.0⑱4.9				
574		①-①E					③40.8④41.9				
575		天保 ①-①E					②42.3				
576		①-⑩HK	HK47.0-48.8				①45.6②③47.0④547.5⑤647.3⑥47.1⑦⑧47.3⑨47.1⑩⑪⑫48.1⑬⑭48.8⑮24.5		虫損		虫損
577		①-⑩H	47.5-47.9				①44.1②47.5③-⑤47.9⑥-⑧47.8⑨⑩47.9⑪⑫38.2		シミ		シミ
578		①-②HK	HK54.0①	HK46.6-48.4②-④		HK②91.3③16.7	①54.0②31.3③16.7④547.8⑤48.0⑦46.6⑧57.9⑨2.1⑩48.4⑪48.2⑫⑬48.1⑭47.8⑮⑯48.2⑰19.6				①-④と⑤以降は一筆
579		①-⑦HK	HK46.5-47.5②-⑦	HK44.5-45.5⑧-⑯			①43.6②46.6③46.5④-⑦47.5⑧-⑩44.5⑪45.1⑫45.5⑬⑭45.2⑮⑯33.5		虫損		虫損
580		①-⑩H	52.2-53.7②-⑨⑩⑰	51.0-51.2⑫⑬			①48.6③52.2④-⑥53.0⑦53.3⑧51.2⑨53.7⑫⑬52.5⑭51.0⑮52.5⑯43.5⑰51.5⑱48.9⑲30.2				⑯まで⑰以降は紙色が変わるが同筆 紙背にマークの判(□に次)あり
581		①-①E					②42.3				
582		①-⑩H	47.5-48.0				①43.6②47.5③-⑤47.8⑥⑦48.0⑧47.6				尾題2ヶ所にあり
583		久寿 ①-⑩H	54.2-56.0				①50.5②54.8③55.6④55.6⑤56.0⑥-⑩55.9⑪54.7⑫54.2⑬52.1⑭42.1⑮54.2⑯48.3		一交り		
584		①-⑩H	48.3-49.2②-⑩⑰	51.5-52.5⑱-⑲			①44.5②48.5③48.3④⑤48.6⑥48.6⑦-⑨48.9⑩49.2⑪52.5⑫48.1⑬3.0⑭⑮51.5⑯48.9⑰30.2				⑯と⑰、⑱と⑰で錯簡なし 墨界なしの箇所あり
585		天保 ①-①E					②41.6				
586		①-⑩HK	HK48.3-50.0				①47.6②-④48.8⑤50.0⑥49.9⑦49.1⑧49.3⑨49.1⑩48.3⑪44.2				墨界なしの箇所あり
587		①-⑩HK	HK48.5-49.8				①47.8②48.3③49.6④49.3⑤49.8⑥-⑧49.6⑨⑩⑪48.5⑫39.4				墨界なしの箇所あり
588		①-⑩HK	HK48.3-49.7②-⑫			HK⑬40.0⑭45.2	①43.5②-④49.5⑤⑥49.3⑦49.7⑧49.2⑨49.6⑩48.8⑪⑫48.3⑬40.0⑭45.2⑮33.7				墨界なしの箇所あり
589		①-⑩HK	HK48.1-48.8②-⑩	HK51.5-51.8⑪-⑱			①46.5②48.1③48.7④48.1⑤48.8⑥48.6⑦48.5⑧48.7⑨48.2⑩48.5⑪51.5⑫⑬51.8⑭51.8⑮48.6⑯19.6				墨界なしの箇所あり
590		①-⑩HK	HK48.6-48.8②-⑩	HK51.5-52.0⑪-⑱		HK⑲39.4	①47.1②③37.8④38.4⑤48.6⑥-⑩48.8⑪52.0⑫⑬51.5⑭52.0⑮⑯39.4⑰34.8				墨界なしの箇所あり
591		①-⑩H	54.7-55.5				①54.0②-⑤55.6⑥55.0⑦55.3⑧⑨-⑫55.3⑬54.7⑭⑮2.0				紙継の紙背にマークの判あり
592		①-⑩H	54.2-55.5②-④⑦-⑰			⑤24.0⑥27.0⑧	①53.6②③46.5④55.0⑤24.0⑥27.0⑦55.0⑧54.2⑨⑩52.0⑪54.8⑫52.2⑬2.1⑭54.9⑮51.0⑯⑰3.6⑱46.5⑲24.9				⑯と⑰とは同筆 ⑯と⑰で錯簡なし 紙継の紙背にマークの判あり
593		①-⑩H	53.5-55.0				①51.3②-④53.5⑤⑥-⑧53.8⑨55.0⑩⑪53.5⑫53.8⑬54.8⑭55.0⑮54.8⑯25.8				⑯と⑰で錯簡なし 紙継の紙背にマークの花押あり
594		①-⑩H	53.2-55.0②-⑩⑮			⑩37.0	①50.9②③63.2④75.4⑤8⑥55.0⑦⑧-⑩54.8⑪⑫37.0⑬53.2⑭55.3⑮50.8⑯52.8⑰⑱55.5⑲51.0				前半と後半で手が変わる 紙継の紙背にマークあり
595		①-⑦HK	HK52.8-53.2②⑥	HK54.3-55.5③⑤		HK⑦⑧⑨⑩⑰	①50.8②52.8③-⑤55.5⑥53.2⑦54.4⑧54.9⑨⑩55.1⑪⑫18.2⑬42.⑭⑮55.0⑯54.3⑰54.5⑱51.0				⑯と⑰は異筆 紙継の紙背にマークあり
596		①-⑩HK	HK52.8-53.2②-⑨	HK54.3-55.5⑩-⑰			①50.6②52.8③-⑤53.2⑥55.5⑦⑧52.5⑨2⑩54.3⑪⑫⑬54.5				紙継の紙背にマークあり

巻次	奥書	時代構成	紙幅群①	紙幅群②	紙幅群③	紙幅(ほか)	各紙幅	校訂	状態	修理銘	特記事項等
597	①M ②-⑦⑧⑨HK		HK55.5③-⑤	HK53.0-53.8③-⑬		HK⑩53.0⑫2.5	①5.6、②50.0③-⑦55.5⑧53.0⑨-⑬53.5⑭35.5⑮22.5、⑯53.8⑰31.0				紙継ぎ墨界のずれあり ⑮と⑰、⑱と⑳は異筆で錯簡なし ㉑から㉒までの紙継ぎの紙背に「ア」の判あり
598	①-⑦H ⑧-E		54.8-56.0				①53.0②-⑦55.5⑧⑨55.3⑩55.8⑪⑫25.1⑬⑭55.7⑮56.0⑯54.8⑰22.5				
599	弘化						②41.7		①と②紙継ぎ離れ		
600	①-⑭HK		HK52.8-54.5①⑤-⑬	HK55.9-56.3②-④			①54.5②55.9③56.3④56.0⑤52.8⑥53.8⑦53.5⑧53.0⑨53.4⑩⑪⑫53.2⑬	表紙・裏表紙糊離れ			

表2

巻次	奥書	時代構成	紙幅群①	紙幅群②	紙幅群③	備考 (紙幅の単位はセンチ)	巻次	奥書	時代構成	紙幅群①	紙幅群②	紙幅群③	備考 (紙幅の単位はセンチ)
201	①-⑥⑦H ⑧⑨HK合巻(巻第221)後文		42.2-42.6②-⑤	44.8-47.0⑧⑨ ⑩(巻第221)		①-⑥は一筆、⑦とは異筆 ⑧(37.5)と⑨(23.2)の間で約700の欠行あり、⑦の文末「...是頁清浄異相無願牌脱門清浄 無二無二分無別」戻返し部分に巻第232の1行、巻第221の5行を貼る ⑧-⑩(巻第221)一筆	260	前欠①KM 以下合巻 ②-④H(巻第251) ⑤-⑩HK(巻第270)後文		51.6-52.8②③(巻第297) 291	HK49.1⑦-⑨ (巻第270)		現状の②-④は巻第251、⑤以降は巻270を継ぐ ①15.6/④20.7/⑤5.5⑥49.6
206	H		53.3②			巻頭の①右端に「願主長口□……」(文字右端截断)	265	①-⑬H		44.6-46.6①⑩-⑰	47.2-48.1⑫⑮		一筆、錯簡・脱字なし ③12.5④31.5
222	①-⑦H ⑧HK		48.0-48.5③-⑪	53.6-54.5②-⑬		一筆		前欠①②HK合巻(巻第297) ③HK合巻(巻第251) ④-⑫HK		50.0②(巻第297) 51.2③(巻第251) 51.0-51.9④-⑫			前欠、現状の①②は巻第297、③は巻第251の途中を継ぐ 現状の④-⑫は巻第270、錯簡なし 巻270と巻297は同筆なり 奥書「中山寺一部之内 軌進無縁書寫為法衆生平等利益矣、長治二年歲次己酉九月十日甲辰始願主僧賢昭/□□□(截断により文字の右端のみこのこる)」
228	HK		HK49.2②			一筆	270	長治					
231	①-⑬⑭⑮ ⑯H		50.8-52.0②-⑬	49.7⑭		⑮以前と、⑯⑰及び⑱はそれぞれ異筆、異質な料紙で、男高のズレ大、⑯の最初の行の文字右端は⑮の料紙で少し覆われる、⑰-⑱に錯簡なし	277	①②⑬⑭⑮HK ③-⑯⑰⑱H		HK50.6②			
235	①⑱K ②-⑬⑭-⑲H		45.0-45.8③-⑬⑰			一筆、ただし①(39.2)と⑮(9.5)はそれぞれ別筆	278	①K ②-⑨H ⑩-M ⑪-⑳K ⑳-H		52.7②			
239	①⑱⑲K ②-⑬⑭⑮⑯-⑳H		50.1⑮	48.2②-⑧	43.3-44.2⑨-⑳	①(44.2)⑱(17.3)⑲(22.5)は異質な料紙で補写、⑱は⑬(40.6)⑮と⑲は⑯(19.0)⑳との錯簡なし ⑧-⑲の天界部分に各行約2字を補写(異筆)した料紙を貼る	279	①-⑳K ㉑-H		K51.4②			
243	①HK ②-⑨⑩⑪H ⑫M		③50.8			①(32.2)は補写か補簡、男高大きく異なる。 ①と②(14.7)で錯簡なし	283	①-⑨⑬⑭⑰-⑲⑳H ⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱M		52.0②			
245	①③④⑤H		②51.6			③以前と④以降は異質な料紙、③と④で錯簡なし	306	①-③④-H ⑤-⑨⑩H		49.8②			
246	H		②50.1			③以前と④以降は異質な料紙、③と④で錯簡なし	309	①-③K ④M ⑤-⑩HK		50.7-51.5②-⑧	53.4-53.7⑨-⑮		
247	①②HK ③H		HK②53.0				316	①-③K ④M ⑤-⑩HK		48.5-49.1⑮⑰			
250	建長 ①-⑩H		44.6-45.0②-⑩			一筆、補写なし、 奥書「建長五年六月十九日、(異筆)「中山寺一部之内」	322	①-③K ④M ⑤-⑩HK		HK46.3-48.4⑤-⑱			
254	①②HK合巻(巻第389) ③④H		50.9③-⑯			①②(各48.3)は巻589、①と②の間に欠行 ①②と③以降は異筆	376	①②KM ③-⑯HK ⑰K		HK47.5-48.2④-⑰			
255	①-③④-HK		HK50.1②										